



今人
能
潜
明
記
新
五
百
題
东旭高编
坤



俳諧明治新五百題卷之下



東京

橘田春湖

同撰

三森幹雄

下總

東旭齋

編輯

秋之部

文月

文月は空や浅黄の澄き〜ゆ

南枝

文月中 秋をかくせぬ形を寂〜

松英

文月中 風もささやけり別ら〜き

霞仙

文月中 空もまじき取寄〜る

虎遊

文月中 灯もぬる〜霞 簾

旭高

立秋

秋立〜空を掃き〜けり

芥舎

秋立〜物も〜かろき 膝の舂

三森雄

冬秋ふもむくも木をかりけり

蓬宇

秋の月もくもや月のまきり

柳眠

冬秋のさゆもや雪の箱を置し

月杵

江の草のゆきも秋の夕アおちよ

千葉

まくれめも秋のまきり 白 扇

春蒔

うつくしくもも寝たり 秋の目

考云

秋のまや里のまきり 秋の目

松英

秋の月や雪のまきり 秋の目

お山

秋の月やまきり 秋の目

和親

まくれめも秋のまきり 秋の目

弄心

秋のまやまきり 秋の目

積翠

秋のまやまきり 秋の目

遊藝

初秋

この秋もまきのほく秋の中も

吟風

初秋のまきり 秋の中も

嵐屋

この秋の中も 秋の中も

呂衣

初秋のまきり 秋の中も

落村

この秋の中も 秋の中も

寥庵

この秋の中も 秋の中も

三千権

この秋の中も 秋の中も

良月

この秋の中も 秋の中も

松英

この秋の中も 秋の中も

等哉

この秋の中も 秋の中も

仙月

この秋の中も 秋の中も

淇水

この秋の中も 秋の中も

犁圃

池水も底まで凍るけきの秋
 氷院
 ぬきつてまじき葉の折るやけきの秋
 梅理
 少あてふ送る程けり今秋の秋
 柏英
 今秋秋はまじきや風のまじき
 冠山
 今秋秋は不精なるまじきや上も腹
 下末
 んまじきや今秋秋はけきのあま
 梅名
 うまじきや今秋秋のまじきや今秋の秋
 結露
 落つまじきや屏風の折るや今秋の秋
 旭高
 後のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 夕方
 甚のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 山月
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 三多
 酔酔りまじきや今秋秋はけきのまじきや
 可少

残 暑

松谷
 秋夕不おされけり秋のあつきや
 我
 井のの秋秋はまじきや今秋秋は
 柔嘉
 甚まじきや今秋秋はけきのまじきや
 文定
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 唐彦
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 科谷
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 一多
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 梅月
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 旭高
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 和親
 秋のまじきや今秋秋はけきのまじきや
 一多

秋 暑

雷の陳
新 涼

秋

稻妻

ひやうめや 派一 結るの 稻妻	素末
かきや へん一 志事一 楳麻	ハ花
のあつみや 仕舞一 志事し 門の 牛	芥舎
のふつみや 小里ハ 安徳ハ 宵露 蛇	堀水
稻妻や 赤ハ 結一 へん 踏が ぎ	一 掘
稻妻や 登一 唐ハ 木の 端ち けり	うめ女
稻妻は 紅一 へん けり 履 屑	也 豆
稻妻は 紅一 派一 池ハ 中 丘の 神	静雲
稻妻は 紅 白ハ 中 影の 赤き 雲	芥 出
稻妻や 結一 へん クア 水 阿波一 山	耕 翁
稻妻は 小 結の 結ま け へん 雲一 家	無 一
稻妻の 岸ハ 中 へん へん 一 碑一 へん	喜徳

秋風

稻妻や へん 門 田 へん へん へん	桂花女
稻妻は へん へん へん へん へん へん	一 桂
稻妻は 中 山 へん へん へん へん	梅 暎
稻妻は 中 結 へん へん へん へん	馬 石
のあつみや 赤 結 へん へん へん へん	梅 月
稻妻は 中 結 へん へん へん へん	梅 一
稻妻は へん へん へん へん へん へん	梅 花
田の 水の 結 へん へん へん へん	梅 英
稻妻の へん へん へん へん へん へん	上毛 雛 為
稻妻は へん へん へん へん へん へん	静 雲
稻妻は へん へん へん へん へん へん	梅 咲
秋風を へん へん へん へん へん へん	水 茂

霧のせきくそつと霧ふやハちや、也
 月窓
 梅香
 昇高
 曉香
 一在
 西都建
 紫葉
 杉葉
 葡萄
 布精
 移る
 東福あり、叶中て霧のそらに葉
 移る

霧

霧のせきくそつと霧ふやハちや、也
 月窓
 梅香
 昇高
 曉香
 一在
 西都建
 紫葉
 杉葉
 葡萄
 布精
 移る
 霧をれや、一庭をうたふ霧の家
 菊庭
 霧のせきくそつと霧ふやハちや、也
 月窓
 梅香
 昇高
 曉香
 一在
 西都建
 紫葉
 杉葉
 葡萄
 布精
 移る
 霧のせきくそつと霧ふやハちや、也
 月窓
 梅香
 昇高
 曉香
 一在
 西都建
 紫葉
 杉葉
 葡萄
 布精
 移る

落し水

落し水のせきくそつと霧ふやハちや、也
 月窓
 梅香
 昇高
 曉香
 一在
 西都建
 紫葉
 杉葉
 葡萄
 布精
 移る

秋空

岩一ツ廻りくく霞を仰ぐ秋の空

木一柱

よまき露もく濡れやうへ秋の空

南枝

秋の空もひらき来りて秋の空

春城

雲の秋もくつるもあし秋の空

喜我

秋の空の清きや秋の空

松秀

又て秋の空もくつるもあし秋の空

李壩

子ゆりくるや秋の空の初月夜

山石

初月や日ほくつるもあし秋の空

壽針

雲もよめくつるもあし秋の空

健大

秋の空の白ひやまづ月夜

梅窓

まづ月や何ぞく花り梢の空

晴月

秋の空もくつるもあし秋の空

旭三島

初嵐

秋の空もくつるもあし秋の空

其仰

雲を初門の通やまづあし秋の空

芥舎

少多の空つるもあし秋の空

花産

雲を初門の通やまづあし秋の空

春湖

うゝ表あし秋の空

月窓

産を初門の通やまづあし秋の空

琴左

秋の空もくつるもあし秋の空

旭島

雲もよめくつるもあし秋の空

彦哉

秋の空の清きや秋の空

半解

雲を初門の通やまづあし秋の空

市精

強合あし秋の空

芦碩

秋の空もくつるもあし秋の空

永探

礎

秋

小夜碁

夕々しきや碁の争かどお

碁 味淡

川上の碁海もきぬこの那

碁 靜岳

おあせいなあらしも新碁うふ

碁 松星

杉風の音もほらしく小碁碁

碁 梅枝

山彦の果いなまけり小碁碁

碁 森指

男も小あのかたもふ少碁碁

碁 担高

新結

結印のあけ橋ふあまや

碁 喜殿

角碁

舟も空しく碁碁美し角力取

碁 陰淫

まな合ふとくも碁のぬ角力取

碁 好風

大ましの夕日小碁う角力うふ

碁 碑山

古運んかきも碁や角力碁

碁 喜城

海より心やき碁角力う碁

碁 百之

倭りたんの碁うり 過 角力

碁 風琴

舟も碁のえのりやと碁う角力うふ

碁 梅丘

まなましく碁のまはや角力取

碁 周高

碁も似ぬまのまもよ角力取

碁 柔山

碁ももまの碁うり 角力取

碁 静空

碁も一の碁うり 角力取

碁 一字

碁も取ちひまき碁も碁のうり

碁 旭橋

花火

碁もにま碁碁たるも碁うふ

碁 一巻

碁も碁も碁火のまはし碁のや

碁 夕日

碁もりふし碁の碁なる碁火碁

碁 千春

碁も人の心も碁も碁火うふ

碁 碁遊

碁もりふし碁の碁なる碁火碁

碁 一得

朝顔

月夜に	花を	あき	花の	如
風ま	花を	花の	穂	
空の	花の	旭	高	
葉	引	孫	解	
鈴	起	森	色	
鈴	周	香	成	
蔓	小	菊	園	
鈴	鈴	素	人	
鈴	青	一	得	
葉	葉	雨	色	
鈴	鈴	可	圃	
鈴	茶	候		

桔梗

鈴	香
鈴	抱
鈴	中
鈴	唯
あ	合
鈴	知
鈴	末
鈴	甘
強	白
實	不
又	魯
桔	旭

溪々水持て暖理の小秋哉 旭高

雀麥 刈草やもともたへに秋なる 季末

刈草や色五木の紅葉や記 冠山

野菊 赤の何くはめははく 素風

晴霞の面小白ふや 岩さうま 岩鱗

岩袴 新秋の吹ふりあまや 紫女

その村より雪もわのうたり 周高

葛花 水さる小舟の雪のたもる 雪朗

百はくむ空のふはぬ 葛の花 隆年

女青 音あふる谷の峰まや 柳水

子心小るる安らよやん 花 連水

金剛州 跡さす針あうのふや 雪彦

草花 多きや人も通るぬむら 園誓

阿比のきとまかりの赤く 和泉

名を問へ小粒かきり 儀紙

春も自小無ねとゆふ 末巻

萱草の庭程をさく 市巻

新道の傍小舟 松寿

山道の絶々みまかり 元雄

名遊々 小舟路ある 岳

あつとく 雪の影く 梅一

人更く 雪もたてく 三夢

日三十一のあふふ月の影さき花散りか 小谷

ちまうらなをさるや花散りか 瀬川

種よの揚務へたりかつふ州 知十

鼠尾針羽前 兼壽

鼠尾針之末 やものもせねとまのあふ 旭輝

みそはきやまきねく庭をりて水 家湖

割きく白紅くは花心や蔓藤沙花 梅岩

持ねのあふなまきゆきまん珠まけ 孫山

茶花 余のまふをひぬるや 男人 子来

男へーカ余りー 幾の形 鼎湖

花散りか 花散りか 花散りか 木見

花散りか 花散りか 花散りか 花山

さ利くの介あまをりか 藤原 満登

秋の秋のまき舞うや 女 長泉

かきくまありのくは月かやかりたり 孫院

風のりち 風中もくんく 女 文橋

花のぬくくもあふく 女 非虫

花うりたをけーさりや 女 信逸

白粉花 おーる心の花や 櫻のり 素成

秋海棠 細くも 絶如 漁まや 秋海棠 以一

吹雪 吹雪まき 日の中 秋海棠 吹雪

我木香 日の脚 小甘のく 旅中 我木香 丘虎

るるくく ぼくは 葉のま 我木香 西孫

若花の子

一ふふささてもあうく若花の子

松英

藍の花

朝しつくとけり花きり藍の花

一舟

芙蓉

華ははよりほふあめのはく芙蓉

唯風

本織取

孫よりやかくりと低き柳の尻

高彦

糸慶州

はふの山を登りゆく木こころ

旭鳥

菘花

たふさくむ糸慶州やふ川

和歌

粟

花ははく掃かやふふ菘花

芥山

稗

たふのれや粟穂まきふれかゆ

旭鳥

黍

粟の穂の存を返ふや正体

倉書

黍

稗刈や遊のふ節ふるやとり

唯風

黍

粟の穂や粟より先んずるの月

唐成

稻花

晴やまきた夜風の音や稻の花

賢水

袴ふもつけくまふけりいねのまふ

祝月

少島の雲雨白をせくそふけり

知明

物の方ふあふまきとふや稻の雲

百谷

旅人ふ登らねふたりつねのまふ

素鱗

世の憂き世志まきまや稻の雲

松奎

ふまふまき朝白夕日やいねのまふ

梅理

片思ふあふもあふもまき稻の雲

菅友

まふつまき秋満る申ふや稻の花

貞三

稻

いづれの花をまきや稻の雲

知白

あふりふ月日の舞や稻の雲

富前

千々もふと目ふるや稻

禾成

早稻

己世の考や存も人も去る如月

青洲

木城川

己世の考や存も人も去る如月

旭高

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

柞葉

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

百谷

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

法湖

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

桂下

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

吾風

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

地足

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

交義

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

旭高

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

布天

芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

西美

破芭蕉

己世の考や存も人も去る如月

連

木槿

己世の考や存も人も去る如月

來史

木槿

己世の考や存も人も去る如月

蘭岡

木槿

己世の考や存も人も去る如月

淑人

木槿

己世の考や存も人も去る如月

松堂

木槿

己世の考や存も人も去る如月

素浄

木槿

己世の考や存も人も去る如月

菴成

秋

散柳

おおふも同先あをひと一葉うな
 相ひと葉落しくそるなり池の上
 起心よき影相のひと葉この那
 相ま一葉の後の思ひつき
 余まよき風何く好相ひと生
 風落しく暮らぬ以や相ひと生
 柳へりを懐く水や梅嫌
 跡く葉不跡くまらりて梅と木
 思りをも葉ふうつま夕日の梅嫌
 影くま葉のち中津一梅嫌
 花の付あうてさくをうめの中木
 尾を指く柳ちくまや葉まきる

唐風
 守節
 壽延
 静愛
 一派
 芝昭
 佳笑
 其柳
 紫隈
 蕙影
 旭香

梅嫌

散くまられあをを海めのま柳
 ちく柳 静ある日好余ううか
 散るかけの障あふ柳き柳うか
 庭掃あかまらあうやちく柳
 根を水不洗あまうくちく柳
 あくまや日まきくえく結あ
 夏引やまも西かきく夕まらり
 残あく引うくく大庭の實入来
 ちかあうく西風送るや糸の中
 培り付く空の空をき西風う那
 勝りあう空好まある西風う那
 こくくくまは深りまある西風来

白明
 可吟
 静空
 松園
 寥在
 菊庭
 松民
 醉花
 風琴
 芥舍
 梅林

刀豆 豆引 西風

鯛

あつらふ
鳥む
三返
はり
法作

秋の蟬

日くくくもや暑き床をくしくしきたつゝ
鯛や片便りなるとる 産り 三
鯛中 涼くく来りく 葉の中
日くくくもや風音の便りも来る時分
日くくくくもや暑くくくも来りて
日くくくくもやありくくも来る月
秋の蟬の鳴き声もなるとるか秋のせき
静遊 春秋
吟花
方多
魯園
窓在
陰風

蜻蛉

蜻蛉のあつらふりまるとる 夕アウ
とんあふや 叶の寝きふもあつら
蜻蛉のあつらふりまるとる 産り 通我
柳 吹風もあつらふるとんあつら
川人もあつらふるとんあつら 揚仙
とんあつら 若くくもあつら 知緑
とんあつら 解せまあるや 産り 也
つとあつら ひとつあつら 産り 蘿球
とんあつら 子供のちるの上をり 窓在
とんあつら ねとねと 産り 菘窓
蜻蛉の産りまるとる 産り 中亭

秋 蠅

おとろくや 秋の 蠅も 忘れ 窓 左

秋 蚊

あきの 蚊や ひろくは 忘れ 窓も 忘れ 窓 新

蟻 螂

蟻螂の 毒の 毒いし や 逃 孫 等 牙

蟻螂や 力の 力の 身は この 身く 眠 汝

蟻螂の 毒を 毒の 毒いし 推す 罪 伏 毒

蟻螂の 毒を 毒の 毒いし 推す 罪 子 柀

秋 螢

あきの 螢の 光を 照らす 燈 汀 浚 汀

蛭 蛭

蛭蛭の 毒の 毒いし 推す 罪 二 日月 毒 遊

蛭蛭の 毒の 毒いし 推す 罪 三 日月 云 菱

蛭蛭の 毒の 毒いし 推す 罪 四 日月 依 川

蟋 蟀

蟋蟀の 毒の 毒いし 推す 罪 依 川 依 川

虫

千 歳

大 根 澁 洲

山 崎

南 枝

梅 春

未 史

一 定

儀 珠

季 成

牛 考

雨 留

松 亭

おとろくの一 群も 月 の入

鳴——つむやや州へふるむの音 号山

そのの戸も意なとせん虫の舞 耕谷

秋と風の虫もくまたり吹くまら月 唇風

志とやこのおおとらけりけり虫の舞 秀里

ふらふらと音中まりき虫の舞 千春

む——のやうらの移れ声のみよむと 芥秀

む——まらや福り小豆りき虫の舞 勇雅

るやとく月とる朝や虫の舞 好古

夜にむ——の世と歩芽も一重 可録

古里のまき——路の虫の舞 子曉

む——まらや州も色と——古井尚 種濤

虫の舞の音の籠の如のらわ——あ 虎ん

通るれと油ととととや虫の舞 背嶺

む——のやや隣も月を移やうきと 千菘

そののまや吹くもむ——の片の心 可和

夕らまきを待つく鳴りき虫の舞 五院

む——のやや新あまき虫の舞 極理

舞——まらや虫の音なると世の虫 泰山

病と風と吹れ、とまればむ——の舞 豊旭

福と病とあまればまらぬむ——の舞 五白

虫とくわやうらねおりのや、虫の舞 味淡

む——の世も是かきあらや虫の舞 芳賀

葉ふねむむ——の音なり月吹り 園山

近よりく虫の音をきくまらけり 栗左

おきや 澄ら 後まじし 雲の中

鹿 跡

虫鳴や し秋の あまれを 雲がごと

一 窓

水籠の 底 海や 中むし の聲

一 窓

虫鳴や 中むし の聲

一 窓

むし の聲

一 窓

虫 撰

一 窓

虫 撰

一 窓

虫 撰

一 窓

虫 撰

一 窓

虫 撰

一 窓

虫 撰

一 窓

竈馬

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

竈馬の 鳴き声

一 窓

螻

珍むしや馬をり馬の意ん
蟻もや近の夜をせの引く

恒九
唯風

茶立虫

耳くくたあまをこ

旭高

但滅

たけをりやそのやまを風の鐘

不録

芋虫

ゆきむしのきくくをんく

送窓

甲虫

かきくもくもく

謝絲

五虫

あむしやおのりあゆの桐の若

玄黙

ねむし

あむしやあむしぬれを空を和舟

季成

冬丸

冬丸を空をひもく

旭高

放生舎

余念ふく轉るまや

亦園

放生舎

人くくく移りま

穂空

放生舎

一撃はよんく

冠山

回らんゆりく

旭高

駒引

駒引や馬をり

唯風

駒迎

たてまつるまをり

る柳

葉月

空まう

雪琴

竹春

あまをり

窓絲

竹春

叶のあねをり

柳子

二百十日

あまをり

莖路

八朔

あまをり

竹葉

八朔

あまをり

阜山

八朔

あまをり

也豆

八朔

あまをり

月州

八朔

あまをり

如水

秋

〇三十

袴り器

月

袴り器や花も實もよき送り物

器云

夏も能く秋もや月の晴

秋海

月ハ下り水ハまじりて流るる

河内

三友

夕月半 樹も青る 春の(新)

吾甲

松百

机まて月のまじりけり窓のる

花角

邪ハ下りまじりよきまの月の雲

霧舟

曇の空や月ハ下りまじり

木一生

さき月小枝ハ思ふ花もよき

胎科

折あかしくひくふなるや月の雲

を益

月まじり外ハ雲のまじり

竹苗

澄月又孫ハまじり戸かな

龜石

月ハ下り水ハまじりて流るる

曉音

月ハ下り水ハまじりて流るる

儀珠

残るるふと月の曇

梅居

空の和とまじり花もよき

旭音

つゆの音もまじりて月の雲

雪朗

湖もまじりて流るる

杉志

月曇く残るる

園誓

右も下り左も下り花もよき

竹周

雨の夜もまじりて流るる

曲川

あまの雨ハ下りて流るる

儀珠

地もまじりて流るる

言海

ひらり流るる雨の月もよき

英社

雨月

秋

〇二十一

月夜

あけつらう月ふしとあはる今宵哉 花若ぬ

さしつらう月のあはる静ふ月夜哉 二光

標はつとあはる月あつ月夜哉 梅如

あつくと若きよとあはる月夜哉 吉水

あつくとあはる月あつ月夜哉 宗鑑

あつくとあはる月あつ月夜哉 千里

あつくとあはる月あつ月夜哉 南校

あつくとあはる月あつ月夜哉 虎遊

あつくとあはる月あつ月夜哉 遊月

あつくとあはる月あつ月夜哉 佳大

あつくとあはる月あつ月夜哉 梅居

あつくとあはる月あつ月夜哉 貞之

あつくとあはる月あつ月夜哉 東人

待宵

あつくとあはる月あつ月夜哉 季成

あつくとあはる月あつ月夜哉 旭高

あつくとあはる月あつ月夜哉 然二

明月

あつくとあはる月あつ月夜哉 季成

あつくとあはる月あつ月夜哉 森遊

あつくとあはる月あつ月夜哉 森拍

あつくとあはる月あつ月夜哉 甚一

あつくとあはる月あつ月夜哉 柳眠

あつくとあはる月あつ月夜哉 厚室

あつくとあはる月あつ月夜哉 香里

あつくとあはる月あつ月夜哉 喜堂

明月半 庭松 以中 々 井 之 影 佳 景
 明月半 烟 々 今 々 々 一 部 切 静 岳
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 湖 之 水 东 岸
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 其 盛
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 山
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 月
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 宇
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 松 英
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 名
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 恒 丸
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 波 勢
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 宇 晴

今日の月

明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 春 湖
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 白 湖
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 东 选
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 淑 人
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 五 白
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 漱 水
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 和 舟
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 二 江
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 虎 山
 明月半 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 虎 遊

秋

あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月
あはれゆゑあまのふちか〜あまの月

晩書 知温 望岳 花角 葉文 旭高 松亭 林月 竹苗 櫻居

既望

月今宵

秋月

いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き
いさよのひのうらな合衆の夜き

以→ 立風 櫻居 春湖 仙林 秋紅 松英 其山 定臨 南舎 陰風

秋

〇二十四

星月夜

夕らきふ菊のぬきり 星月夜

千成

初汐

初汐や思ひかけあはし 枕

月窓

秋雨

去らきともさきさき秋の雨

素青

秋庭

掃く除くを淋しく志さう 秋の庭

橙秋

秋門

ちりいひさきふまきねく 秋の門

田柳

秋日

送らきふみさきも 秋の入りり非

胡蝶

秋日記

移るる 移るる 移るる 移るる

旭音

暴風

夜よりりの二日 暴風の夜 秋日記

林月

秋考

あまの秋の落るるも 暴風の夜

甘雨

秋鐘

あまの秋の落るるも 暴風の夜

紋汀

秋考

あまの秋の落るるも 暴風の夜

兼候

秋考

あまの秋の落るるも 暴風の夜

虎迹

秋考

あまの秋の落るるも 暴風の夜

膝川

秋

〇二十五

後儲卷

ふるもふも寒めの後の儲巻うち 物水
日の脚のみくくた装束の儲巻は 言底
秋夕 ひく日つくるものそとて秋の夕 暮湖
携ふ遠くふまの朝りゆ 秋の夕 竹亭
携へくく人を寄るはさうりあきの夕 末風
ふくふく林の気老の夕アう那 一柳
我のくくふさゆる積るはきの夕 善後
ふるもふくるものきあも秋乃夕 本見
秋の夕里うくく向くうらりゆく 好阿
あくくをくく物くくくあき秋の夕 善白
携けくく火まはさくくく秋の夕 信々 虹橋
あきのふも積るくく秋の夕アう那 如南

秋水

植ある屋のまーくまのくく秋の夕 暮一
何ひくくくあき秋の夕 千星
相持ハくくあき秋の水 暮茂
夏の軒も浮あきひくく秋の水 旭あ
田をさるくく車もあき秋の水 石節
まきのけくく秋の夕 二水
まきのあきくあき秋の夕 風琴

秋山

秋の海 船くくむのくくあきの海 旭高
秋の川 濁くくく秋の雄神川 木見
さくくくた携のかくく秋の川 古 琴池
水 酒 流のかきくく風もあきくく 栗石

秋の川

水 酒 流のかきくく風もあきくく 栗石

秋

秋雲

あけなき水も濁せしより千曲川
夜り糸あしきく清く秋の雲
枝形

蚊帳別

空降る目より蚊帳も別々
半海

置扇

四つ目八掛しき紙屋の別々
柳琴

一度二度三度と志きく扇を
曲川

扇の結の産栗のや一府置
潮水

扇のやまきくや毛はく夢の那
丘虎

秋のふらふらまきく掛扇
云来

扇の名も響く吹まり
雪瓊

捨團扇

かう来てくれぬ影あり捨團扇
客秋

後離

秋ののりも涙の夕より後の離
吟風

薄

薄ののりも涙の夕より後の離

虎也

穂乃あしに若く重丸か芒の香
うめ女

近遠のまき越うねる扇の那
文葉

たきくわに葛は葉の花はく
素霜

扇のまきく扇の中や石俣
保直

扇のまきく扇の中や石俣
素鱗

扇のまきく扇の中や石俣
拾月

扇のまきく扇の中や石俣
梅山

扇のまきく扇の中や石俣
嵐和

扇のまきく扇の中や石俣
一榻

扇のまきく扇の中や石俣
参友

扇のまきく扇の中や石俣
南茂

花のさきききまもあけり、鳴ふりり 知温

穂のききききわうちる 穂きり 喜層

尾花 抄のさのへ 何色せまき 尾まう那 喜雪

押水おのさ道か〜ら〜 尾まお 子純

紫苑 まゆめれ〜 磯もと〜 ぬ〜 もんた 未常

まか〜ら 人まうた〜さ〜をんた 伝寿

まあ〜け ちま〜り 伸〜き 志ま〜んた 竹解

萩聲 ちさ〜のき〜 通〜 多落さ 序の壺 感之

襦袢の〜のり〜り〜り 萩の〜 沼水

舟形おりの〜の乳ま〜さ〜ひ〜 萩の〜 貞松

浦の〜の〜 萩〜か〜り〜ら〜萩の〜 一柱

ま〜つ〜の〜れ〜の〜さ〜と〜お〜り〜の〜 萩の〜 水竹

川舟を〜の〜の〜れ〜の〜き〜と〜 萩の〜 木鶏

芦花 舟の〜の〜さ〜る〜の〜ゆ〜ち〜ま〜ら〜の〜あ〜の〜花 窓月

姫〜の〜の〜れ〜の〜鳴〜〜と〜沸〜〜 鳳仙花新里 松繫

鳳仙花 鳴〜〜ら〜ら〜の〜あ〜の〜う〜も〜あ〜層〜花 洪水

つ〜と〜ま〜る〜の〜葉〜の〜流〜び〜 萩の〜月〜の〜際〜る 喜成

摘菜 つ〜と〜ま〜る〜葉〜の〜の〜葉〜の〜葉〜 旭言

つ〜と〜ま〜る〜葉〜の〜の〜葉〜の〜葉〜の〜葉〜 門烟 圃柳

圃菜 芝〜の〜の〜の〜揚〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜 一の笑

穂の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜 揚花

角力 角力〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜 一馬

秋 角力〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜 一馬

草

淡くも 陸くも 草の葉

陸風

秋の 一多 草のつゆ

宅邊

鬼灯

鬼灯の 細や ちひさき 鬼灯の 灯

洪水

ほつと 水の なる 赤い 草の中

清水

ほつと 水の なる 赤い 草の中

千里

あつと 水の なる 赤い 草の中

毒泉

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

木通草

人の まはつ けぬ 草や あつと 草の中

其法

蒲萄

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

蓮

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

蓮

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

稲

あつと 水の なる 赤い 草の中

其法

秋

二十九

蘭

例 ヨシキ ハルカ ツクシ ハルカ ハルカ ハルカ 蘭の白ひらか
 蘭の青ふし 不詳ふされき 机
 竿うらら どの青の透 茶の多民
 子あせつハ舞 ともあきや 蘭の花
 疾くく ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ 蘭の花
 力あき ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ 草 指
 草 指や 切考ふ人ふ附 ハルカ
 草 指や おく 友小 ハルカ
 草 指や まる風 白く ハルカ
 草 指や ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指や 先へ ハルカ ハルカ

新馬

舌介

壽玉

文義

木洞

龜月

本一生

魯周

松影

玄路

一所

天物草

松草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

秋草

草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ
 草 指 ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ ハルカ

草

月

汶

賀

村

岳

山

松

眠

清

高

秋

三十一

初雁

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

北の空やよき秋の空を渡る

あすつらん空を渡る

雨苗

蒼枝

月所

蘭岡

知新

文空

晴沼

無石

貞三

之幹

一昇

花鳥

作世

御友

宮城

如蘭

書我

笠友

赫月

起條

隆年

作周

澄潤

雁

北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る
北の空やよき秋の空を渡る
あすつらん空を渡る

花鳥
作世
御友
宮城
如蘭
書我
笠友
赫月
起條
隆年
作周
澄潤

天津尾

赤紙の巻名を名の幕や 竹の勢

一竹

轉

はつちあふくさくさくめねや 三津尾

旭高

轉

ひよろや 時もかきくは 煮あま

晒る

うつろや ねの ねちうき 茅 草 能

松月

かひくくと 鳴や 轉の ねきん

壽玉

山雀

首まのり へん中 轉や 子の中

南枝

小雀

くちく 日社 時 けいふも 雀 轉る

葦窓

四十雀

ゆつろや 山小名のまらねり ね

雪窓

五十雀

短り ね ねきん けいふ 小 ね

雪窓

毛鳥

十のふち 名も ねよ 四十 雀

子来

渡鳥

もたれや けいふの ねり ねきん 四十 雀

好古

六十一の ね ねきん の 一 五十一 二

旭高

ゆつろや ね ねきん の ねきん

雪窓

雪あふくる 雲も 合ふる 渡り 鳥

春湖

心あふけ ねきん ねきん 渡り 鳥

昇山

茨のまや 渡り 鳥 ねきん ねきん

梧成

米園の 雀 けいふ ねきん 渡り 鳥

葦哉

扇の ね ねきん ねきん 渡り 鳥

大乃

目業の 利 ねきん ねきん 渡り 鳥

荷磨

思ふより ねきん ねきん 渡り 鳥

園誓

目白 とも ねきん ねきん 渡り 鳥

唵風

孫鳥 播の 風 ねきん ねきん 渡り 鳥

旭高

秋

〇三十三

頰赤 通し 吾ら頰白や 萩のまふり 季成

頰白 ふるまねく 楳ふささし 鳴頰白 一水

帰燕 杉のまをを 羽せの 仰るこも 多武 ころ丸

鳩吹 鳩吹や 曉らら申る 鼓の 皺 豊旭

木啄鳥 あつさきや 枯るも 芥の ありぬ枝 清月

尾長鳥 ありさきや 夕日かえそ 神の 森 花山

稲雀 高きかり 目もさきりけり 稲雀 可唄

月望 夕をさきく 朝もさきく 居る 以 稲雀 月望

旭高 世并よき 秋をさきく 夜 新雀 旭高

陰風 くらげと まぬさきく 露の 山別 陰風

可災 鈴と 秋と 熟る 知 浦まき 先 可災

招珠 海風と 雀も 目もさき あり 目のか 招珠

霜村 夕らさきや 浪も 熟る 示 引あき 霜村

伴哉 風のまき 引く 世の 下ぬ あり 伴哉

雀友 以て 度も さき けり あり 雀友

芥舎 吹く 引 空を 見 兄の 田舎の 田 芥舎

千海 一と 萩 する 申る 桐 田も あり 千海

梅月 風名のか あり あり あり あり 少年 梅月

可洗 あり あり あり あり あり あり 可洗

添水 引板 水鳴子 案山子

あらうまの引鳴はあまたり夕陽と 先山
 一引ふゆ柳柳くあまのうま 梅白
 やまのそよよの鳴ゆるもの添水 大栗
 引板も有と到る 藁窓
 目わりの接ぬちあやあまの子 ^{チッコ} 京風
 山の田やかかー 但井小き人か ^{ウセン} 是時
 ひろかき持てあまの世をかー 春陰
 越のらまうれたらーや 物かー 一圭
 まるうまのそよよのそよよのそよよのそよよ 春雀
 風やまー 峰やまーの阿蘇院置 茶好
 そよよの穂のすやかーの森海 亦茂

鯛

沙魚釣

鯽

鱸

初鱧

鯛の引 添水やあまの添水 亦里
 ませつりの添水にりり 岸の岸 清水
 挿れをこい載る沙魚やのり魚 一凡
 鱸の魚もあまのけまー 鳴河流 梅容
 有きてもままのあまのり 鳴河流 旭高
 まわりのうまの川感 春の那 雀新
 ままのまのあまの添水にりり 亦柳
 是れまの添水にりり 亦風
 添水の白の方へ 添水の 常川 龜水
 まわりのまの添水のまの添水の 亦 飛水
 川のまの添水の添水の添水の添水の 亦 遊
 也 是

紅葉鮎

秋蝶

潮きむしや一尾もそく遠くをの

友后

秋のこもやむもくそ成りたり

雀友

小やう花の叫小舟もや秋の露

友文

そと花、心のかり、あまの露

仁里

阿きの露風のゆりを遊ばし

鵬山

植も花ハ疾く起てあり秋の露

暉堂

深かき〜もあまの秋のそふ

列雅

秋遠くふ人の間〜あまの秋のそふ

五鳳

花うき、あまの秋の露

若山

あまの露、あまの秋の露

一瓢

思ふ余る千種のあまの秋の露

長和

御遷宮

秋の御遷宮

御遷宮

秋祭

神風ハあまの秋の御遷宮

家尾

神風ハあまの秋の御遷宮

旭斎

外市 外市や秋の御遷宮

千里

外市 常盤木の秋の御遷宮

季成

外市 秋の御遷宮

流水

九月盡 秋の御遷宮

二水

九月盡 秋の御遷宮

露卿

九月盡 秋の御遷宮

元雄

十月 十月の御遷宮

帰雲

十月の御遷宮

素壽

十月の御遷宮

橋汀

十月の御遷宮

竹籬

秋

長夜

夜寒

十月やうらやうの暮るる雪の門	也
十月や城の燈自もあられうり	茶庭
十月やうらやうの日のまきわさ	竹林
十月の雪小萩うり	南校
十月の月ねを土の新々木	知縁
夜をしのびしやあふりけり	遊橋
冬きくやみかけあつと荒風	白所
あふりけりまきわさの夜もり那	砲田
めの冬うらやうも月あつとあふりけり	南中
さうらふつらふとあふりけり	夜をり家
さうらふつらふの朝のそらうらやう	夜をり家
夜のあふりけり	夜をり家

漸寒 露寒 初寒

初寒 霜をよみ 霜をよみ 霜をよみ	霜
漸寒 雪をよみ 雪をよみ 雪をよみ	雪
露寒 露をよみ 露をよみ 露をよみ	露
初寒 氷をよみ 氷をよみ 氷をよみ	氷
霜をよみ 霜をよみ 霜をよみ	霜
雪をよみ 雪をよみ 雪をよみ	雪
露をよみ 露をよみ 露をよみ	露
氷をよみ 氷をよみ 氷をよみ	氷

秋霜

新雪や窓を照けのまき空	新雪や舟の帆の白くふり	新雪や門の扉乃ちあふり	新雪や志とまの心のかね	新雪やひねり玉ける世ニツ	新雪や窓から空の水の気	新雪や露もぬるる夕陽海	新雪や聲や鳥の一羽ニ好	新雪のふらさく花や秋の香	それとてしづのささや秋の香
芥舎	磐月	水石	柳糸	清雪	林月	月窓	泉溪	芦碩	清古

霜月

露時雨

露中もつゆの之しや後の月	露もあまの風のをまや後の月	露情あまの空のまきや後の月	露たかきと志や後の月	露を吹風おのめしや後の月	露葉生れ結露のまきや後の月	月も目もくしと秋のまきや後の月	やとりの木の枝あつく時々露時雨
芥舎	芥舎	芥舎	芥舎	芥舎	芥舎	芥舎	芥舎

秋

秋色

芦の穂秋初々 新や 露叶向 百葉

海より川 水もも 色も 秋の毛 果葉

山々の余り 色も 秋の毛 雪琴

新田娘

あふ顔のよも 色も 秋の毛 喜湖

雨と氣 色も 秋の毛 菊枝

庭のけしき 色も 秋の毛 中尾

雛をて 色も 秋の毛 菜葉

花あふる 色も 秋の毛 雪洲

秋深

ひつちと 色も 秋の毛 露御

一日つと 色も 秋の毛 梅月

冬隣

新起のゆき 色も 秋の毛 春雪

行秋

川 新や 新く 海も 水の音 一歩

新あきの 琴も 山の ちきれ 雲舟

川 新や 厚程の 橋の 及る 露外

秋りや 甘も 秋の 枝の 露風

菊

菊の 日や 別も 秋の 南枝

菊の 日や 別も 秋の 洪水

米の 穂も 秋の 穂の 冠山

る 風を つく 秋の 日 洲白

菊の 葉も 秋の 葉の 豊積

菊の 葉も 秋の 葉の 雀雅

ぬき 菊の 穂も 秋の 穂の 一宮

少産後小菊の色もあつる節白哉
菊のきや 葉末のきやのふもきねの好
余もあつたつて菊も思もきつす
咲く世々口唇り 神多り 園の菊
負の菊や 真ん中もあつたつて
菊のきや 源氏もあつたつて 氏タア
菊も別あつたつても 白もあつたつて
人もあつたつての節や 菊もあつたつて
香もあつたつても 洗もあつたつて 菊のき
楊子も菊もあつたつて 枝もあつたつて
菊のきや 人あつたつて 花もあつたつて 寺

總月 梅月 瓊月 遊雅 如山 也豆 以一 竹左 雪洲 五松 野紅

南辰

あつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
飛風もあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
旅人のきや 花もあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
垣外へあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
閑あつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
そつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
きつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
菊のきや 葉末のきやのふもきねの好
花もあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
雪もあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好
春もあつたつての節や 菊のきやのふもきねの好

一 飛 布 尺 一 沼 我 儀 傑 修 山 雪 朗 半 湖 春 湖

白菊

秋

志く菊やをくちりて日のたをかり

静山

去くきくくの菊の香もあつ酒の味

東石

白くのら葉もやうく夜のみきく

蝶殿

黄菊

押あくる夜露のくちりて黄菊の

静我

斜にまると夕日まると小黄菊の

若生

菊のそと

きせの菊のそとをくちりて菊の

一升

残菊

残菊をくちりて宵のまると花の

歌解

十日菊

十日菊をくちりて花のそとを

千文

花のそとをくちりて十日菊

五層

初紅葉

初紅葉をくちりて花のそとを

聖心

代菊をくちりて花のそとを

三千里

花のそとをくちりて花のそとを

菊園

紅葉

連ハヤとくちりて花のそとを

芥舎

分ハハ種ぬれをくちりて花のそとを

岩岳

る花をくちりて花のそとを

子銘

の花をくちりて花のそとを

賞東

花をくちりて花のそとを

出層

たをくちりて花のそとを

去階

花をくちりて花のそとを

松亭

日の影もくちりて花のそとを

三石

花の影もくちりて花のそとを

對嶺

花の影もくちりて花のそとを

一柳

花の影もくちりて花のそとを

芥舎

ひやり〜と照〜新〜〜

清水

山幸の勝の海〜も〜ち〜那

耕谷

かおのまは横ふひ〜〜

旭峯

おき〜〜成〜〜夕

佐周

夕暮の夜中〜おき〜

金逸

う〜中〜〜新〜

栗川

山門のめ〜川〜おき〜

曼水

おき〜ん〜の〜おき〜

赤虎

里〜川〜〜おき〜

極一

爲〜〜〜任〜〜おき〜

東寺

新〜〜〜知〜〜

觀月

蓄零花

海〜木の神〜〜おき〜

百谷

隠〜〜〜も〜〜

喜哉

退〜〜小〜〜おき〜

梅理

折〜〜ち〜〜おき〜

赫眠

を〜自〜〜も〜〜

涼水

留〜〜おき〜

天神岱

湯〜〜おき〜

如山

ち〜〜おき〜

玄黙

溝〜〜おき〜

見二

澄〜〜おき〜

芦川

よ〜〜おき〜

礪田

滑〜〜おき〜

魯周

澄橙

秋

四十二

萬

道しゆら道ねて油しきり色

里植

侍き傘しかりた傘しきりの宿

千雀

萬紅葉

やうり木ふ秋の積りやきり葉

文室

神しゆの葉火つりやきり葉

良保

昔ゆみちの白きうけの秋の幹

子末

秋のしゆり引ぬ送やきり葉

操子

指多葉

流しきり葉きり葉や湖の川

旭高

妙山孫

山をけ屋ふ引舟の孫うふ

梅在

指ゆふ移かきりや時のおしき

半窓

龍膽

月んしゆり葉きり葉をうらるる土取

唯風

月んしゆり葉きり葉をうらるる土取

逸窓

秋のしゆり引ぬ送やきり葉

二完

葛花

うまき花の味も花ふ咲

藤村

押しゆり葉たまり花の葉をうら

舌結

苦葛

あけ合の味もあうらりやその葛

春向

鶯の葉

つりしゆり葉同し越向や鶯の葉

如蘭

鶯の葉細くしある葉の内

梅在

鶯の葉しゆり葉の葉や鶯の葉

甘而

鶯の葉葉を結ぶ秋の葉

耕翁

鶯の葉しゆり葉の葉の力

寿玉

石末

まやると死月日をまやるとまや

雀友

秋のしゆり葉やまやり石末

雀雅

鳥がや

あしあまの地味もまよれりや

寒危

末枯

あしあまの地味もまよれりや

文義

秋

〇四十三

栗

うららねや 厚も薄き 一ツ家 雑楯
 赤のれや 煮くう 糸畑 注一 口 干菜
 赤のれを まむき 一 根や 世の毛
 杉起の まむき 世の毛の こむき 栗
 落栗や 一人の毛を 一 田川の 中
 笑ひか 一 一 一 一 一 一 栗の 積成
 栗の 一 麻の 一 一 一 一 一 一 上
 むの 一 一 一 一 一 一 一 栗 拾
 落栗や 一 一 一 一 一 一 一 曹琴
 推の 實 一 一 一 一 一 一 一 昆 吟
 木 實 一 一 一 一 一 一 一 共 柳

馬

樟

馬樟の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一

香 黙

牡丹根分

より 白の 根を 牡丹の 根分り 分
 白く 根を 煮て 一 一 一 一 一 一 一 旭 高
 葉が 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 新 岳
 柿 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 花 角

柿

柿 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 竹
 落柿 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 布 帯
 柿の 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 植 花 女

新の 柿の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一

蕪

柿

柿の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 繼 石

釣

柿

釣の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 芥 菜

松

榴

松の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 味 菜
 榴の 葉を 煮て 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 旭 高

萩

ちり一ツ片つりしたる後くち

芥袋

蔓菁子

芳ひ人のまろくまのつくむろく

芥立

種茄子

目まろくまをまろくまのつくむろく

保直

糸瓜

桐ひらうくまゆる糸瓜のまろくま

牛解

藤蔓豆

ふちまののちや律まのゆるち

永明

馬瓜

うらややちつまろくまの馬瓜

梅向

落穂

ありしとめろくのちやこのまろく

梅容

芥子

杖のまろく落穂を提く通り

梅月

辛子

苜蓿やまの月のまろくまの芥子

旭翁

鹿

まろくまの吹きくる風や鹿のち

芥舎

鹿のちのちのちのちのちのちのち

改訂

那のちのちのちのちのちのち

巴松

まろくまのちのちのちのちのち

知温

山紙くまのちのちのちのち

文橋

引替のちのちのちのちのち

一朴

まろくまのちのちのちのちのち

早翁

宍倉のちのちのちのちのち

歌解

鹿のちのちのちのちのちのち

瓢風

鹿のちのちのちのちのちのち

東井

鹿のちのちのちのちのちのち

梅保

鹿のちのちのちのちのちのち

松月

鹿のちのちのちのちのちのち

野山

萩

鴨

鴨一羽三竹先中 夕荒波 菅塘
 去一亦中一青い草々々々々の鴨 井用
 風をくく亦中くく鴨の籠おくくか 蔭花
 人形をくく亦中くく立好草の鴨 株子
 鴨くく鐘をくく里くくお日くくもくく 子来
 ふくく亦中を去くくせくく五中くく内の鴨 珍山
 鴨の姿の鴨実換をありりーか 忘風
 鴨くく亦中位好のつぼし歩り振 芥盛
 鴨の姿くく亦中お日くく亦中くく亦中 瓢舟
 村端亦中一本中くく亦中鴨の聲 瓢風
 今起くく亦中の指中 鴨の聲 茶碗

百舌鳥

鴨突

鴈の聲

豆廻鳥

鶴 鴛

活 鮎

崩 築

茶立虫

あつちりくく鶯の聲 一 豆まきし 曉月
 鶯の籠の籠をせきく 亦中お日お日 晴月
 山川中 鮎亦中くく亦中おの亦中 旭高
 落亦中亦中 豆まきまきく 村の風 抱明
 亦中亦中 亦中亦中 亦中亦中 三菱
 晴くくくくくくくく 亦中亦中 一 柳
 近くくくくくくくく 亦中の亦中 千里
 村中くく亦中亦中 亦中の亦中 也立
 くくくくくくくく 亦中亦中 風袋
 今くくく障子叩くく 亦中亦中 一 柱
 耳 亦中亦中亦中 亦中亦中 旭高

秋

茶をむしり一掃くくくくや指の耳

夢湖

蛇穴入

の穴を抜きや蛇ハかきやうり

冠山

今年米

はくく帆や新米時の曙ハ

うめ女

伸しゆく備へるやこく米

隆年

月と白の結ぶ光りやあき米

圃柳

新米の傷ふ新ふ新のりくり

南竹

綿糸糸

まふねや風もろくろり糸のよ

李成

新酒

一口ハ味もひひく吾新酒の那

吾拵

新酒の酔ふきあよまき酒

可嘯

樽の中もまくも通き新酒の系

花角

ゆねひまき日かきあき新酒の

指

白ひも酒もあき今年酒

指

酔の酒のよやあき新酒の

遊月

深きまき葉火をきり新酒の

龜月

川銀せん少住あき新酒の那

露心

亭一ツ結まぬ酔の新酒の那

重飴

早稲酒

己世酒や神くすの糸一糸の心

石芝

びひろく

びひろくふ酒もあき新酒の那

雪海

醪

あきり酒もあき米一木柄粉

良虎

中汲

中汲や多割の鏡ハ腹の虫

一水

柚味噌

あき米ふ抽くく白もあき酒

松蜜

結くも乃きく物もあき酒

遊の金

猿酒

猿酒ハ人ふ汲まき米あき

可録

秋

〇四十七

菊酒

花をくも下戸も好むくさくの酒

季成

新蕎麥

新蕎麥はや新米よりも地味か

雪洲

夫様

何程くさく人も希ひそるひき様

過義

冬

万両の神うゑを賣らん夫様

静月

冬

米舟ののほろをききし言子の日

健笑

朗作

秋らしき夕やあふふ日

作石

冬部の

神無月

中しふふの日つまぬ神無月

三雄

初冬

まのまのしつりののけき世をうあ

一推

神をわ人のあやし新のまの

芥金

神をわやうふとあるあまの

芦原

田わありまのまのめは二三日

静遊

冬

四十八

小春

まつやゆさうきぬのぬけぬ山 虎遊

小春舞のけけぬけぬ山 柳心

小春のやけけぬけぬ山 燕居

まつぬのけけぬけぬ山 之ぬめ

夕影のあけぬけぬ山 省我

あけぬけぬけぬけぬ山 枕石

けけぬけぬけぬけぬ山 巾陰

浦ふさぬけぬけぬけぬ山 三菱

庭ふさぬけぬけぬけぬ山 梅月

あけぬけぬけぬけぬ山 支橋

あけぬけぬけぬけぬ山 耳岩

あけぬけぬけぬけぬ山 秋園

あけぬけぬけぬけぬ山 秋園

あけぬけぬけぬけぬ山 虎遊

あけぬけぬけぬけぬ山 白明

あけぬけぬけぬけぬ山 雀静

あけぬけぬけぬけぬ山 話小

あけぬけぬけぬけぬ山 三遠

あけぬけぬけぬけぬ山 一市

あけぬけぬけぬけぬ山 周重

あけぬけぬけぬけぬ山 志文

あけぬけぬけぬけぬ山 芦川

あけぬけぬけぬけぬ山 秋月

あけぬけぬけぬけぬ山 秋月

ちきれ花後の名雅一少集風
 龍文の心細西の川邊ふ少集分
 茶畑のひびくや少集の利休意
 日一まの雪雪のなくく小六月
 採きの好意採のや小六月
 依編む老も落多や小六月
 汗減ふやの月も多小六月
 二三編さくくさくく小六月
 江戸遊ふ人も多さく小六月
 大島女のくまくくもや短き日
 田舎の採もまくく冬採入
 春我
 百節
 旭高
 梅月
 木箱
 梅茂
 友枝
 梅李
 村潭
 如木
 程を

冬籠

冬籠の言をふくくくや冬籠
 客のけの柳用こくく冬籠
 四のくく雪くくくく冬籠
 昔の先及くく日籠や冬籠
 世のくく人くくまかせく冬籠
 春柳の血やくくま茶白の冬籠
 鶯籠まの如くまの冬籠
 窓はくく小籠くく縁や冬籠
 ふ二見ゆも窓くく冬籠
 為古紙の落くく冬籠
 松高
 翠系
 月村
 茶窓
 伊久
 森雀
 高村
 柳舎
 百谷
 唇風
 勇雅

冬

初時

慈微うききりしつの中ふゆとあり
兼た初より手製り海や冬より
海り岸も大結りまわり初時
志らふきを信れかきに初時
家外やまきめまかりのまつり
田もふき結端ゆ結りまわり
星結空あり活りまわり
越をまきせまかりや初時
の舟も少船の中をまわり
さうやまき結りまわり
市路ハ有るものよまわり

拾舟 旭着 画村 南枝 一生 末層 豊旭 桂舟 赤岩 其盛 旭

時 篇

初時

山のぬき里ハ夕日結り
志らふのまわりまわり
天結の中海も出まわり
時ゆきや一葉も静小音月夜
朝よきや時ゆき
時ゆきやまわりのまわり
まわりのまわり
何よりや初の時を少夜
海りまきまき
あまの雲杉穂拾ま

早哉 洪水 二光 守舟 竹用 南枝 益友 妻舟 荒遊 香燃 舟左

冬

暑くわと秋家ちひきくけりたり
 下京く酒きふおむしるきう那 信松本 伏
 あしきくはははは向ふの時向う家 ヒタキ 鴉
 まつしきくはははは向ふの時向う家 晚月
 雪をかりけり時向の通り 梅
 庭外の室ふめをきく時向の那 魯周
 晴よりあとの鳥きく時向の家 花
 推し送る海通もきく時向の家 石
 時向の甲し程を片とる都 梅
 所並中一尺例まわく村 梅
 疾送のきよりきく時向の家 末
 山月

浪風のやきくきくあふしきく
 傘さしきくあふれ八目のあふ時向の家
 菊をれしきく一筆きくあふ時向の家
 ちつしきくつきく時向の家
 朝方きく酒り合きりあふれしきく
 菊もも酒きくあふれしきく
 時向の家 萩の雀も時向の家
 川田皆きくむきくあふれしきく
 かき送る竹不驚きつしきく
 送るしきくあふれしきく
 竹ももきくあふれしきく

初
 末
 梅
 春
 梅
 雀
 晚
 芥
 山
 燕
 松
 竹

冬

志々々々やおのきもぬ〜人のね 旭高
 篠簪の若きねりよ〜らさうらる 圃極
 引〜り非るのぬ〜く時雨うさ ^{エツ中} 才
 叶〜やも縁引もる小菴結る 一舟
 江の上や叶も〜おもふひと白雲り 也足
 叶〜や今も〜月の漏り〜寂 強松
 ちきれり〜きいよ〜ゆる叶もかふ 一圃
 ち〜や〜つ〜き〜結の叶 半酥
 ち〜や〜さ〜りふ〜る菊瓶半 ^{ヒタテ} 基丸
 ち〜乃〜た〜消ふ〜り 有粒
 ち〜や〜結〜の〜も〜〜〜は〜お〜 二連

初霜

初霜
 白濁
 涼洋

ち〜雪の上小圃自〜小棘の非 去鱗
 夜〜の初雪〜け〜庚り〜り 霖云
 花〜や〜月〜光〜を〜け〜る〜の〜色 虎心
 花〜や〜落〜く〜積〜も〜深〜の〜ゆ〜る ^{アワチ} 洋こ
 ち〜雪〜や〜結〜く〜ぬ〜旭〜の〜顔〜も〜さ〜ま 布袴
 初〜雪〜の〜佛〜も〜あ〜る〜く〜雪〜の〜う〜へ 穉圃
 初〜雪〜の〜降〜結〜る〜小〜山〜の〜非 本一生
 ち〜水〜端〜端〜〜〜た〜つ〜や〜も〜う〜か 飛年
 ち〜花〜の〜僕〜も〜も〜ら〜ま〜く〜ま〜つ〜水 紫珠
 ち〜雪〜や〜風〜の〜さ〜ま〜か〜ま〜結〜の〜非 文貞
 ち〜雪〜や〜一〜羽〜根〜ひ〜の〜持〜ち〜あ〜き 光高

初氷 炭

冬

炭の火のきんく夜涼き旅籠の家 岩代 随雄

炭の島中 膝まひりよせし由房途 情書

撰者の常解らう さま池田炭 梅老

何の事もあまのあり序の炭 柏英

花芒果えよあまれ 炭 儀 虎遊

照引くさ路の御走中 起り炭 遊路

まね白房や はきまきねく又狭む 亦書

次是く したの さま炭の白ひる家 一飛

炭の島中 相りの白山夜め 道 芦碩

炭の島中 相り遠く切り 雪のうへ 岡老

炭の島中 山のうへよまひと相り 瓜袋

巨燧

けいせいし こんたのふ かなまき 女くね 梨又

炭の島中 相り 今くり さまくたのり 六路

炭の島中 相りのまきまきく こんたのり 一撮

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 荻路

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 三千堂

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 梅敬

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 笠友

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 明林

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 隆風

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 虎遊

炭の島中 相り 遠く切り 雪のうへ 以一

置巨燧

圍炉裏

火鉢

冬

火桶

赤のあまの原 陸のうら 大鉢うふ 住 笑
 産解をく したれ 八号 ぬ大鉢うふ 梅 岩
 りつる 俵 出まき 建物の 大鉢うふ 柳 舎
 産を産 産の 大鉢の かきりりり 足 水
 産を産 産の 大鉢の かきりりり 目 末
 花挿 産を産 産の 大鉢の かきりりり 青 涙
 かきりりり 巨魁 産の 相大 桶 一の 鉢
 りつる 白小 産 産の 大鉢の かきりりり 桑 壽
 朝夕の 産 産の 大鉢の かきりりり 沙 小
 うつる 大の 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 うつる 大の 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

埋火

うつる 大の 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 うつる 大の 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

懐炉

あまのあまの 産 産の 大鉢の かきりりり 世 足
 火うつるの 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 懐 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

温石

温 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 温 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

助炭

助 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 助 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

楷火

楷 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致
 楷 産 産の 大鉢の かきりりり 出 致

冬

松向多々々客小橋大の表カ非 内雲

わささささ山如のうを清きささり 梅珠

を別もあく焚て居るあさ天うか 松密

捲きさく織みのくさや多むしり 雲酒

思ひ切くあさ天焚たり 柳うさ

焚く曲さあさか勝ささささささ 一豆絲

捲ぬりまさるや其他の打もさささ 抱月

妙采や彩ふ夜ものひささささ 保麻

居の所や寝る人寝る居の寝気 可孫

ろ界や京の傳りもあささささ 西沙

口切や幸とひささの逆生 山石

口切し昔の焚るや一居のまのり 院馬

口切ふは幸とひさの海苔 旭島

石居るのゆささのさささのな 以層

流るるのさかく流るるさささのな 如層

廻橋さう用さささのさささの非 春湖

幸さささの澄蟹あささささささ 南枝

車戸の空走りまらるささささの非 文庭

弱舟の焚火のささささささの非 春齋

塗あふ臭のあさささささささ 可少

ささささした橋も寒をとささささ 一風

朔澄く清くあささの寒さの非 飛月

我のあふのささささささささ 蘭庭

あさささのささささささささ 一土

寒

炉 用

口 切

急ぐ人のいふよりの山寒さう那
 夕の心あこもる人の心しづかに
 昔のまよひにありてをききたり
 まよひの心は後例をききたり
 懐くも心もはるかにありて
 襟木ふりしめりてをききたり
 明子の涙をいへばをききたり
 一宮の心は山にありてをききたり
 紫雲くもる山にありてをききたり
 汲よる水の清きをききたり
 夕の心は山にありてをききたり

園柳 水窓 寒花 百蘇 得山 似水 梅理 抱月 蘿城 遊月 然花

木枯

夕の心あこもる人の心しづかに
 昔のまよひにありてをききたり
 まよひの心は後例をききたり
 懐くも心もはるかにありて
 襟木ふりしめりてをききたり
 明子の涙をいへばをききたり
 一宮の心は山にありてをききたり
 紫雲くもる山にありてをききたり
 汲よる水の清きをききたり
 夕の心は山にありてをききたり

山 意色 扇岳 桂花女 一見 半鱗 陽末 田月 奇孝 文彦 川里

冬

積りてまゝふえくくみゆの山 雲月

けあふ雪の峰や 冬ゆの山 暮泉

釣りてる山もあさり 冬ゆの山 山石

冬の風 冬の月 今も酒や 冬ゆの山 暮泉

冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

少海や 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

玉雲

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

山眠

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬田

雲 冬水 ちりてくくおのうら 冬ゆの山 如才

冬

水洞 洞川の白けを度き月夜那 不言

水湧 水湧中風も通さず一葉 吟風

顔之世 顔之世の吟中葉を結ぶつと 南庭

脍 脍のふゆ儀の情けとまけり 元本 梅理

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 和歌

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 蕉歌

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 湛水

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 不白

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 貞出

鞞 鞞の中葉ふゆのやむつかゆに 鶴尾

袴 袴の中葉ふゆのやむつかゆに 唇風

袴 袴の中葉ふゆのやむつかゆに 花角

袴 袴の中葉ふゆのやむつかゆに 芦原

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 一柱

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 有川

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 沙白

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 如吟

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 甘谷

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 鼎湖

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 同濟

水仙 水仙の中葉ふゆのやむつかゆに 梅林

終

葱

多仙中 雨き風ふらふぬ切不 健周
 形似や 梅の酒うー 瑠のうら 芥窓
 かさねるお袖まきー 多仙床 曆室
 多仙や 暮うーとまれハ皆合と 務翁
 多仙や 暮ー多仙のまれハ如 旭有
 白ーとと水うーとまりー 流葱 田柳
 糸も多とけのまのく 流ひ葱 連水
 葱の多や 多と多と風の名し 浪波
 竹の多や 葱細ととぬひとら 家 隆風
 月少とと 持るく 多と 根休う家 招顔
 葱ひとと 目多と 心身ふととと 徒 繁松

山茶花

さんちや 月のー 多と 情まき 木一
 さんちや 多と多ととー 月の斜 月卅
 さんちや 老のまらんを 門少寄 本逸
 さんちの 根うーとまやー 五子 五咲
 さんちや 多とたれた多と多の 網 五函
 さんちや 徒移所ー 下やー 多と 晒了
 さんちの ちとや 多と多と 石のく 本雲
 陸日向さん 多と 小は 遮遮 一の那 幹月
 さんちや 四多とたて 月の伸る 萍英
 さんちや 隣ハ 度き 以やー 多と 石山
 さんちを 多とくか 通る 多と 多と 陶鶏
 さんちや 多と中 千やと 多と 多と 下丹 貞花

冬

復花

えんをこれハ月のまのついでやゆり糸	雪山
七のちも是くを移りゆり糸	芳笠
雲をこむきふカも奇しくゆり糸	二以
ゆり糸きききききき枝もな	芥舎
首数干とささるりやゆり糸	く遊
ゆり糸折くとまれたまゆり糸	拍美
まらひりまらけりゆり糸	隙水
陽まらぬ影奇をさりゆり糸	北遊
まきまのまらるりゆり糸	疎花
つらつらまらゆり糸	浮古
茶かゆりまらゆり糸	まら九

枯尾花

つらつらまらと人のゆり糸	郁我
茎やせくまらゆり糸	市天
まらまらまらゆり糸	松亭
秋中ハまらまらゆり糸	季成
まらのまらまらゆり糸	春湖
湖くまらまらゆり糸	清逸
一まらまらまらゆり糸	南枝
かりまらまらまらゆり糸	吟君
目のまらまらまらゆり糸	一漁
柳まらまらまらゆり糸	干成

冬

枯 萩
茶の花

よき所のおもひごとく 圓き道 枯尾花	旭
一さゆふ夕日おあろく かしこ尾花	倭
枯のまきや 華ももそくお 枯くまき	子
茶のまの圓ふちひききき 茶う那	百
茶のまきや うちらた 茶けて 茶う文	松
茶のまきや 斜ふあてる 夕日うけ	紫
茶の花の ぬきむひも くのまき	雪
茶の花や ともり ぬきむひのまき	守
茶の花ふまき 夕日のまき 垣根うか	萍
茶の花や うちらた 茶うも ぬきむひ	柏
茶の花や あり ぬきむひ 一 梅	河
茶の花や あり ぬきむひ 一 梅	旭

よき所のおもひごとく 圓き道 枯尾花	旭
一さゆふ夕日おあろく かしこ尾花	倭
枯のまきや 華ももそくお 枯くまき	子
茶のまの圓ふちひききき 茶う那	百
茶のまきや うちらた 茶けて 茶う文	松
茶のまきや 斜ふあてる 夕日うけ	紫
茶の花の ぬきむひも くのまき	雪
茶の花や ともり ぬきむひのまき	守
茶の花ふまき 夕日のまき 垣根うか	萍
茶の花や うちらた 茶うも ぬきむひ	柏
茶の花や あり ぬきむひ 一 梅	河
茶の花や あり ぬきむひ 一 梅	旭

冬

枯く世を吐くよと世あきり

旭

冬枯

冬枯の世の世あきりや世の世

世

際もふくみあきり日世の世けり

得水

霜枯

霜枯の世の世あきりや世の世

水

枯菊

枯菊の世の世あきりや世の世

枯枝

枯野

枯野の世の世あきりや世の世

枯松

冬蔞

冬蔞の世の世あきりや世の世

蔞

冬牡丹

冬牡丹の世の世あきりや世の世

雪

あけの世の世あきりや世の世

遊水

あけの世の世あきりや世の世

柳葉

あけの世の世あきりや世の世

梅一

あけの世の世あきりや世の世

長和

あけの世の世あきりや世の世

茶味

あけの世の世あきりや世の世

干文

あけの世の世あきりや世の世

雪山

あけの世の世あきりや世の世

月空

あけの世の世あきりや世の世

平山

あけの世の世あきりや世の世

雪淵

あけの世の世あきりや世の世

周兼

あけの世の世あきりや世の世

魏月

散紅葉

冬

枯 艸

冬枯の節より小根の鳴る節

花角

冬枯の節より小根の鳴る節

泉溪

枯 蕨

冬枯の節より小根の鳴る節

石支

冬 艸

冬枯の節より小根の鳴る節

寒石

大根引

大根引の節より小根の鳴る節

笹氏

大根引の節より小根の鳴る節

等裁

大根引の節より小根の鳴る節

花角

大根引の節より小根の鳴る節

南枝

大根引の節より小根の鳴る節

岳岳

大根引の節より小根の鳴る節

花民

大根引の節より小根の鳴る節

子新

大根引の節より小根の鳴る節

赤青

枯 根

枯根の節より小根の鳴る節

目眩

木 葉

木葉の節より小根の鳴る節

芥舎

木葉の節より小根の鳴る節

松亭

木葉の節より小根の鳴る節

俛舌

木葉の節より小根の鳴る節

嘉小

木葉の節より小根の鳴る節

魯周

木葉の節より小根の鳴る節

木籍

木葉の節より小根の鳴る節

望丸

木葉の節より小根の鳴る節

位大

木葉の節より小根の鳴る節

能傍

木葉の節より小根の鳴る節

柳舎

木葉の節より小根の鳴る節

碧石

冬

〇六十五

落葉

秋暮りの少軒小寺の落葉
 地の上へくさくさ風力の落葉
 揺る揺る一葉もふくまらぬ夕潮り
 さらさらせくまらぬ一葉もふくまらぬ
 舞う舞うくさくさの落葉
 水音の折るくさくさの落葉
 暮中のまらぬくさくさの落葉
 田や畑にまらぬくさくさの落葉
 花籠ふくまらぬくさくさの落葉
 夕暮るくさくさの落葉
 朝のくさくさの落葉
 夕暮るくさくさの落葉
 朝のくさくさの落葉
 夕暮るくさくさの落葉
 朝のくさくさの落葉

冬木立

枯木

八ツ手花

枇杷花

冬木立の葉もあつた
 枯木の葉もあつた
 八ツ手花の葉もあつた
 枇杷花の葉もあつた
 冬木立の葉もあつた
 枯木の葉もあつた
 八ツ手花の葉もあつた
 枇杷花の葉もあつた
 冬木立の葉もあつた
 枯木の葉もあつた
 八ツ手花の葉もあつた
 枇杷花の葉もあつた

冬

鴨

夕影中 鴨の姿をみよと かのりあり

煙風

水鳥

水鳥の羽 空を渡る 姿のうつく

水鳥

水鳥の羽 空を渡る 姿のうつく

水鳥

水鳥の羽 空を渡る 姿のうつく

水鳥

水鳥の羽 空を渡る 姿のうつく

水鳥

水鳥の羽 空を渡る 姿のうつく

水鳥

小鴨

小鴨の姿 可愛くも かわいらしく

小鴨

鴨

鴨の姿 可愛くも かわいらしく

鴨

鴨の姿 可愛くも かわいらしく

鴨

鴨の姿 可愛くも かわいらしく

鴨

冬

六十七

鴨くさあそけ沸しや池の園 一節

鴨くさくしゆ採つて返もひそふ水 暉小

鴨鴨のゆきそより〜のびる那 柳眠

きつ〜し〜もそそ涼かそそ〜か事の勢 木亭

此年のま〜夜のよく〜清くそそる心 吾風

き〜し〜もやそそ〜のうきそそるも浪坑 石俣

き〜し〜もも〜も〜も〜のま〜も〜 芥定

し〜し〜も〜も〜も〜のま〜も〜のひ〜り 南枝

月少もろ 月もよ〜と〜の〜りゆ非 言法

一 雁看く〜し〜も〜ら〜〜〜ちりりり 旭高

お〜や〜ふ〜風〜り〜思〜く〜ま〜ね〜を 秘峯

沖〜ハ〜あ〜〜の〜り〜ゆ〜〜そ〜〜〜〜〜〜 乙女

お〜ち〜や〜う〜さ〜甲〜の〜ひ〜あ〜〜〜〜り 鶯花

月〜の〜今〜ふ〜い〜〜し〜〜年〜ふ〜う〜ま〜を〜採〜を 一の橋

と〜〜長〜も〜ま〜〜く〜〜〜〜〜〜し〜〜〜〜 壽玉

夜〜ハ〜更〜〜し〜〜も〜〜れ〜〜〜と〜〜あ〜〜り 木菖

お〜を〜と〜あ〜〜く〜〜〜〜〜〜〜〜〜 水菊

二三所 棗もも〜も〜ら〜や〜ゆ〜ら〜と〜り 茗花

浪〜戸〜琴〜の〜綱〜お〜通〜ふ〜ち〜ら〜り〜の〜ぬ 梅光

け〜ま〜の〜し〜〜て〜空〜も〜ま〜き〜ち〜ら〜り〜う〜さ 如唇

浪〜の〜く〜ら〜〜ち〜い〜出〜ぬ〜ら〜ゆ〜ら〜と〜ら〜利 梅香

月〜ま〜加〜り〜う〜と〜か〜ぬ〜浪〜も〜ら〜ら〜う〜さ 竹濠

浪〜ち〜り〜社〜志〜の〜し〜れ〜ハ〜鳴〜あ〜ち〜ら〜う〜さ 詠遊

千鳥

冬

鴨のあきと庵 渡かきく川ちりり 春湖

信りーの程のくまきそ鳴りとり 木足

成ふそらわきそら鳴ちりりこの中 乙子女

あぢもまげんかうー中少徳多る 昇山

つひそらふちりり鳴ふり居月反 山石

浦風や一舞くく小啼ちりり 文義

晴やーくく鳴酒やー鳴 ちりり 柳子

千をこころ思ふちりりしや山の空 旭我

後先ふ千多の勢平 由り 兵 揚仙

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

千をこころ思ふちりりしや山の空 兵 揚仙

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

鷓鴣

あぢもくひくく鳴ふ遠くふ千多か ^{ヒナ}ひく又

冬

頭中

夜中しよゆきのまきまの紙衣式
紙衣あきく形同くしんを安き

菖居

何くも人くくまきく紙巾くか

抱秋

風呂の湯水高きく床く紙巾式

旭高

服心まかか冠く紙巾く那

菊園

戸口かか冠く紙巾式

雪静

角くか冠く紙巾式

九芽

福年か人く紙巾式

素色

紙衣

とりちくま古や主供紙あま白

秀湖

粥煮ゆきままゆき一合り那

晴風

綿帽子

ぬり杖小まかりくぬりや縁摺り

う笑

綿入

まきの中かきぬめりる紙まきり那

久菜

蒲団

寝る目紙ゆきまけまきあまん

味良

夏む時風のまきくまきん那

水也

夜のまきかきぬめりる紙まきり那

千海

あまらぬ紙まきりる紙まきり那

梅老

まきぬ紙まきりる紙まきり那

貞雄

乗紙のぬりくまきりる紙まきり那

冠山

足袋

白足袋かきぬめりる紙まきり那

三千里

白足袋かきぬめりる紙まきり那

松豊

納豆

納豆汁かきぬめりる紙まきり那

十水

納豆汁かきぬめりる紙まきり那

周高

若きふたりのゆりも押し幼き舟 綺石

表しくおるひしく 初きう那 下松

持し出と折あも日ひそ 初きう那 高尾

切きしや南のくまき新のしれ 紫月

切きしや南のくまき新のしれ 宮謀

風呂吹 舟の流るの道うたり 水

干菜 干菜とくまめし 新のそとゆりか 抱月

夜風の中干菜のたたく岩の壁 玉風

酒をくも干菜のたたく岩の壁 雲山

味しきを風かきくまめし 干菜ゆき 紫菜

神旅 あゆみきり遠くゆくし 神の旅 土能

神留主 鈴夕のそと かくと休のるま 暎山

月のおと 流しくもたし 休のるま 古枝

美しきと夜の流しきや 神のるま 一風

神もまきけんるるまの日わらう 上毛 虹橋

神迎 御魚の尾鱗うくくや 神迎之 三香

ゆきおよき人のゆりむく 紫史

神送 かくつとくも 休もあつとく 神送り 得山

神送しと新あし 初きう那の集く 岩友

神楽 言のそと 初きう那の集く 竹困

言のそと 初きう那の集く 素人

庭燎 天長節 新嘗會 花本祭

宵くらしの風の多きよ。里 林 栗 大栗
 吹風よ 林の心このまきと 林 栗 百之
 樹を吹くく風。楓や 柳 栗 下サ 丁 左
 松風の音を吹けと 林 栗 二 那 浪 月
 火のくももまうとわかれと 林 栗 成 院 馬
 井車ももるもる 庭燎の吹りうか 松 氏
 輝くや 天長節の 秋 日 月 宮
 くらし楓の音を備へる 新 嘗 會 芦 風
 せふきくふふ 新 嘗 會 南 枝
 その秋のさくぬふふ 一 かれ 尾 玉 之 子 遊
 新嘗會の時布の林のすつりの那 出 海
 花のくもまうとや 思ふくまうとや 海 遊

芭蕉忌

天のけちの小葉のさつりくま 芭蕉の 春 旭 翁
 世の春や 時命小 治 和 二 百 年 旭 翁
 春のよや 空もかちちて夕 一 くらま 輕 白
 くのむしと吹く風の 時 命 日 珠 姓
 松原のけち小 去 一 くらま 一 けり 春 明
 何武隈の松も 時 命 日 暮 月 然 月
 時命をまうとや 傳 和 久 の 世 一 くらま 向 軒 唯 和
 けち命や けちまうとや 人 上 治 和 歌 曰
 けち命と 叫 一 くらま 向 軒 陶 翁
 けち命と 叫 一 くらま 向 軒 感 之
 けち命や けちのまうとや 人 の 數 旭 翁
 十夜 夜のまうとや 傳 和 久 十 夜 或 撰 年

市多裁

きくくあゝ延々のきくく十たう系
は運々くゆと十たは白髪う系
送るうるきとまきも十たなはりか
腮のきうたう運々う十たう系
接移あましる念俳やゆか載
婦しさいきああうし小ああう
うあゝぬきの白ひやゆき
かき婦うう菊の白ひとゆき
つうたうゆかりあう十たあ
ううてんきんは後のうかりゆき
婦きくくもうあのも白やゆき

沙白

叢窓

雪丘

旭南

泉源

春山

柳水

甚山

喜紋

後中

霞御

大沙粥 御合座

達磨忌

師走

たうゆきやううりゆき年ううう
たうききやう唐の世帯のき一物
人あうの夜毎不更ううゆきう系
強ゆしまきううゆきう系
巻のき小襦を引るれ一ゆきう系
眼とゆき丸も耳ううゆきう系
ゆうゆきやう小甲のううゆきう系
雲うゆき一我語をきゆきう系
一とせのうううあううゆきう系
冬うのきや人のゆきをうう系
存介の味とゆきうゆきう系

唯風

梅落

他山

湖舟

片案

幸山

咲岳

明好

雪角

南板

陰風

冬月

その静て	わづらふ	あまの	つゆ	を	か	雀友								
旅も	き	市の中	あも	砂	を	う	那	文室						
一豆	粒	の	味	と	あ	ま	も	沙	を	う	那	才	室	
春の	さ	る	物	は	る	て	冬	の	月	詞	美	女		
櫻	の	う	道	不	た	中	冬	の	月	清	香			
も	れ	切	く	走	り	の	冬	の	月	豊	稜			
吹	あ	ま	と	中	の	ま	上	中	冬	の	月	一	滴	
ま	か	へ	ら	起	水	を	あ	り	て	冬	の	月	野	紅
秋	も	ま	う	ら	吹	き	く	ま	れ	冬	の	月	梅	梢
白	梅	の	新	も	ゆ	き	て	冬	の	月	梅	理		
大	松	の	若	水	光	り	や	冬	の	月	新	月		

霜

冷	ら	き	こ	や	う	や	暖	ん	の	冬	の	月	梅	末	
州	も	本	も	岩	を	か	り	あ	り	冬	の	月	梅	末	
お	り	く	空	の	晴	き	り	あ	や	の	月	香	里		
梅	の	家	の	梅	火	中	冬	の	月	冬	の	月	香	里	
お	の	う	熟	え	く	あ	り	て	冬	の	月	香	里		
梅	は	る	足	お	と	る	冬	の	月	知	麟				
ゆ	き	秋	の	紅	む	く	雪	や	中	冬	の	月	香	里	
生	望	の中	小	火	を	煮	き	あ	ら	冬	の	月	香	里	
花	と	らん	る	お	の	光	り	や	烟	の	庭	り	世	采	
梅	の	ま	る	風	清	き	一	ゆ	ら	中	冬	の	月	香	里
と	ち	凍	け	ら	その	あ	く	の	白	ひ	り	歌	日		

冬

雪を火くし たる侍りしよ ちのち 冠山
 春の風や ことくくく ちのち 素川
 春の風や 悔ふと ちのち 湫水
 春の風や 悔ふと ちのち 帰雲
 春の風や 悔ふと ちのち 喜地
 春の風や 悔ふと ちのち 清月
 春の風や 悔ふと ちのち 柗山
 春の風や 悔ふと ちのち 柗山
 春の風や 悔ふと ちのち 保山
 春の風や 悔ふと ちのち 文彦
 春の風や 悔ふと ちのち 静秋

霜花

霜花 山石
 霜花 雪染
 霜花 仁王
 霜花 煤年
 霜花 春湖
 霜花 梅保
 霜花 一市
 霜花 柗山
 霜花 淑人
 霜花 耕る
 霜花 固堂

凍

冬
 〇七十六

秋のうらやま 少なきお新也一 華の色 精舎
あつちやくあるや 少なきのちりぬり 一 凡
から浮や一 せぬと一 雪の家 素壽
雪を中一 形うつさうく 居まゝのあ 一 空
あつちやく 峠をゆく 米 依 以 林
かまゆのゆけあけく 居るや 雪の敷 一 野
きのつちあふく 雪は 多なきに那 芳 笠
夜ふねく 踏くも 居るや 門の色 雲 山
罪のあきさす たなきむらや 雪 珠 あり
銅犬のや 吼らるる 雪の 簾 以 一
鈴のゆめ 居るや 雪の時 木 鶴
あつちやく 雪の

雪のうらやま 一 一の月あつちやく 喚 雪
魁ふ 犬も一 居るや 雪のうらや 暮 我
あつちやく 踏くも 居るや 雪の時 宿 影
白雪ふ 雪のうらや 雪の 張 山
雪のうらや 一 居るや 雪の 露 御
垣越一 一 居るや 雪の 鏡 水
雪のうらや 一 居るや 雪の 借 奉 一 車
懐く雪のうらや 人のけりも 雪の 山 碓
雪のうらや 一 居るや 雪の 素 風
雪のうらや 一 居るや 雪の 木 一 生
雪のうらや 一 居るや 雪の 梅 月

冬

晴々たる人跡もまじりつゝのゆき	如新
はらりたる身もくらくくをよの人	子来
杉風をこゝのめりてさす縁衣の那	新里 杉聚
道中まじり外へふふ雪の香の香	手抑
汐引く汐の香の香	の海
雪々たるハ跡くもゆくり	ゆ聚
ゆくりまよひのまじり	春珠
雪々たるのふりつる月つまや雪のふ	身周
地々たるも梅の枝も雪のまじり	竹政
雪々たる中合の年の小枝も折	落村
雪のふりたる跡もゆくり	鹿武

月もまじりたるゆき	雪のふり	家池
大を煮てゆきもゆき	雪のふり	杉密
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	月影
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	春萍
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	聚月
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	梅石
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	五虎
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	梅岩
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	赤虎
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	花彦
雪々たるゆきゆきゆき	雪のふり	一界

冬

何れもわが世にあり雪の夕	一
旅人よよき旅人よよき旅人の雪	一
つゞきのちひさしくありて雪の形	吾
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	純
海川ハ老なりてありて	真
雪の山の中ゆきよゆきよゆきよゆきよ	三
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	芳
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	千
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	結
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	一
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	里
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	二
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	其
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	盛
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	市
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	宿
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	江
ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ	島

六ツの花

どれどあれも雪の如きはなすも六ツの花
園柳

雪蓬广

ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ
翠園

雪 伴

ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ
百翁

雪 吹

ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ
一 一

雪 九 け

ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ
一 一

雪 車

ゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよゆきよ
珠 庄

冬

擧

氷

冬の中は氷のたれごとくしる細い

寥古

うらうらと踏めるときは雪の音を

一物

掛るや可なり歩むも静かなる世

唯尺

かんどもせやさしりく別ぬときも

芳西

かんどもせや木の花たつたふり道

冠山

馬の道中氷のたれをよのり

水周

空をゆく花をかくる氷のたれは

金遠

流るる水もくはれをよのり

梅向

花のたれをよのり少極の氷のたれ

梅彦

遠くゆく氷のたれや桶の餘

龜石

こころ氷のたれをよのり氷のたれ

一山

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷のたれをよのり氷のたれ

氷

氷柱

月のより 霞より 朝の氷柱は
 ありぬる 氷柱と なるぬ 中のる
 叶の戸の ちりを 移すく 氷柱を
 け 霞中 氷柱は 人の不 動き
 二日のふ つゆも おそく 垂氷く
 ささく 彩るく くるまの 入るの 非
 毎日の 雪く 出く けり 氷柱の 非
 雪く 人 梅も 冬の中 の 寂 寂 寂
 禁は たる 火く くるく くる みる みる
 月の脚の 中く くるく くる みる みる
 と き あり あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり あり

梅石

静遊

竹陰

静る

嵐厚

表村

子産

生楽

浪月

る柳

南枝

雪朗

冬 雨

ときわ あり あり あり あり あり
 ふきの 曇り あり あり あり あり
 運る くるく くるく くるく くるく
 田舎 あり あり あり あり あり
 冬の中 あり あり あり あり あり
 雪く くるく くるく くるく くるく
 月く あり あり あり あり あり
 川く あり あり あり あり あり
 氷く あり あり あり あり あり
 あり あり あり あり あり

後雨

以一

文致

静因

素人

伎勢

あり

菊庭

木一生

雪江

米小

冬梅

冬梅	一歩危	日のあ	延く	冬	の	あ	若	一	澄	冬	梅	一	歩	危	日	の	あ	延	く	冬	の	あ	若	一	澄
梅	争	好	あ	つ	の	好	毒	子	院	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅
冬	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅

室の梅

探梅

冬至梅

寒菊

探梅	冬至梅	寒菊	冬	梅	室	の	梅	探	梅	冬	至	梅	寒	菊	冬	梅	室	の	梅	探	梅	冬	至	梅	寒	菊
梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅
梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅	梅

冬

石落花

月やれのしつたきもか——石落花の香
 草の艶とまろくや石落花の花の香
 石落花の香取平々今もまろくか那
 日ひまもや古井の湯の清き水の香
 湯の清きまろくや石落花の香
 一二三まろくまかまろく、冬 椿
 葉あろくし石落花もまろくまろくを
 甲のまろく石落花まろくまろくまろくを
 まろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく
 日ありまろくまろくまろくまろくまろくまろく
 引くまろく 夜興や果は何れまろくまろく
 人の名を大まろくまろくまろくまろくまろく

東渡

芳笠

甘谷

雪片

静淵

知麟

花友

瓢風

枕石

龍虎

吟風

琴山

夜興引

熊実

鷹

暖鳥

鳥叶

熊実 熊実まろくまろくまろくまろくまろくまろく
 鷹 鷹まろくまろくまろくまろくまろくまろく
 暖鳥 暖鳥まろくまろくまろくまろくまろくまろく
 鳥叶 鳥叶まろくまろくまろくまろくまろくまろく

二光

琴山

一松

甚佳

清月

長樂

甘雨

石芝

文彦

稚松

一榻

追鳥狩

寒音鳥

木兔

時を〜や〜雪小を同ふタアうか
可凍

山のありき追をむねお成りの都
大乃

さう〜〜〜おのま〜〜〜を苦毛
唾風

細う〜〜〜おのお〜〜〜を苦毛
以一

木兔鳴や〜雪か〜〜〜を月のま
水牛

木兔鳴や〜斧をの〜〜〜仕の木
雲山

木兔鳴や〜世の確も〜〜〜ぬ新
芥盛

さ〜〜〜〜〜樹のか〜〜〜木兔の聲
吟琴

夜にや〜〜〜のあ〜〜〜〜〜木兔の聲
酒重

木兔の聲〜〜〜〜〜けり
清志

木兔鳴や〜月夜然〜〜〜森の園
龜遊

木兔鳴や〜月夜然〜〜〜森の園
龜遊

月を〜〜〜禁方〜〜〜湘代少屋
翠園

月を〜〜〜の影〜〜〜や湘代少
芥盛

啼き〜〜〜月に向〜〜〜あ〜〜〜ろ守
聖堂

新〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
松疎

何〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
梅園

紫漬中〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
唯風

ふ〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
虎遊

沙川の氷の〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
如木

牡蛎〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
會香

生海鼠〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
春湖

捕〜〜〜〜〜の悲〜〜〜〜〜や月の所〜〜〜ろ守
光壽

冬

河 豚

あましくと柳の川をさそふまをさるか	素壽
振舞の向ふお独りしあまをさるか	名菜
群馬をさるまを群のさるやあをさるか	二光
群のさるやあを群のさるやあをさるか	咲月
あまをさるまをあまをさるまをさるか	松園
松園のさるやあを松園のさるやあをさるか	松川
あまをさるまをあまをさるまをさるか	粟村
あまをさるまをあまをさるまをさるか	松亭
あまをさるまをあまをさるまをさるか	延松
あまをさるまをあまをさるまをさるか	子前
あまをさるまをあまをさるまをさるか	一水

薬 喰

鶏 印 酒

あまをさるまをあまをさるまをさるか	釜煮
あまをさるまをあまをさるまをさるか	千成
あまをさるまをあまをさるまをさるか	松水
あまをさるまをあまをさるまをさるか	群馬
あまをさるまをあまをさるまをさるか	月窓
あまをさるまをあまをさるまをさるか	松園
あまをさるまをあまをさるまをさるか	名菜
あまをさるまをあまをさるまをさるか	一柳
あまをさるまをあまをさるまをさるか	千菜
あまをさるまをあまをさるまをさるか	若公
あまをさるまをあまをさるまをさるか	御水

冬

大原
雜修在
冬歸派

あつと道もつふふ廊らけ神や
思ひあつと道もつふふ廊らけ神や
あつと道もつふふ廊らけ神や

車一胎

人ひまをひらのまひりてり

節重候

傍らうりて別道てりや節重候

節重候や節重候や節重候

節重候の角も塔のまけり

節重候もあつと道もつふふ廊らけ

厄拂

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

寒念佛

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

寒垢離

あつと道もつふふ廊らけ

寒形

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

寒入

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

あつと道もつふふ廊らけ

山石

峰

十

日窓

窓

寺

松

五

八

光

極

芦

極

素

律

成

冠

佐

一

旭

東

極

冬

寒水

暮のふき煙 深きや 重の氷

半海

寒月

重月や 葦のかき 重も 如湯き

松月

重月や 膠まかり 出せし 揚力人

碓清

重月ののゆも 重し 海の果

鷺居

重月や 柳を 抱せむ 川の影

梅者

寒雨

傘ふ 濡つて おとや 重の雨

梅向

晴湯のつめ たき 風や 重の雨

柳翠

寒梅

重梅の枝 ぶらぶら 重の雨

梅客

重梅の枝 ぶらぶら 重の雨

一物

寒内

風も 重し 重の雨

逸三

乾鮭

かき 鮭も 釣おく 重の雨

晴風

年忘

年忘 年忘 年忘

以水

うめ 年忘 年忘 年忘

仁道

年忘 年忘 年忘

石道

年忘 年忘 年忘

柏英

年忘

年忘 年忘 年忘

逸三

年忘 年忘 年忘

叶花

年忘 年忘 年忘

柳談

年忘 年忘 年忘

唇風

年忘 年忘 年忘

一送

年忘 年忘 年忘

季成

年忘 年忘 年忘

等裁

煤掃

年忘 年忘 年忘

等裁

冬

来一人の端めくたへや煤をとり
来史

煤掃してかさぬ直まや炭法
木丸

の地まゝ風名沸かや煤拂
逸云

まゝ掃やまろくまろくまろく
甘菜

煤掃くまろくまろくまろく
菜菜

まゝ掃や行交つるは庭のまろ
存宗

まゝ掃もまろくまろくまろく
八菜

まゝや一は世のまろくまろく
旭高

まろくまろくまろくまろく
種松

まろくまろくまろくまろく
汎菜

押まろくまろくまろくまろく
る菜

海老菜まろくまろくまろく
る菜

葉竹賣
限りまろくまろくまろく
三桃

月まろくまろくまろくまろく
芥岱

年用意
裁縫やまろくまろくまろく
半粒

衣配
粉まろくまろくまろくまろく
喰菜

衣配
衣配まろくまろくまろく
茶角

裁縫
裁縫まろくまろくまろく
維石

縫上
縫上まろくまろくまろく
世呈

餅搗
まろくまろくまろくまろく
其残

餅搗
餅搗まろくまろくまろく
清月

まろくまろくまろくまろく
作亭

粉まろくまろくまろくまろく
柳後

餅つきや丸のおて病々裏戸口 林保

餅つきや一白つゝ小夜のあけら 春志

餅つきや海へ望みたり 餅つきら 菘菜

おもしろき事もねらめてたー餅つき 陰風

餅つきも本ねを餅つきや一ツ家 牛左

餅つきや只一軒お餅つき 川 松亭

餅つきの名を餅つき 市の中 柳翠

餅つきの海や赤いお餅つき 餅つき 里桂

餅つきの海の名を餅つき 餅つき 梅程

餅つきつゝ人あを餅つき年一浪 陰凡

餅つき浪の名を餅つき 餅つき 旭高

餅つき海の中を餅つき 餅つき 月宮

行年 餅つき海の中を餅つき 餅つき 梅宿

餅つき海の中を餅つき 餅つき 一芳

餅つき海の中を餅つき 餅つき 一呼

餅つき海の中を餅つき 餅つき 里高

餅つき海の中を餅つき 餅つき 全

餅つき海の中を餅つき 餅つき 一巻

餅つき海の中を餅つき 餅つき 素論

餅つき海の中を餅つき 餅つき 在勢

餅つき海の中を餅つき 餅つき 嵐松

餅つき海の中を餅つき 餅つき 楽只

餅つき海の中を餅つき 餅つき 素論

餅つき海の中を餅つき 餅つき 芦原

年の夜や一松の...
 松舟...
 年の尾...
 除夜...
 年の終...
 年の開...

大三十日...
 年の籠...
 大年...
 秋冬混題...
 寺小入日の...

冬

〇九十

とうりくく又兼えけり枝の敷 大才 涼美
 今りの心け多岐すり外いふ イセ 果樹
 月七望し皆志ささるちとりの花 イセ 翁中
 杉くく山ふと丸く 遠江 十洲
 中仙やさわのーかぬ葉の配り 新里 八雲
 和戸や一園くこがく 万才 陸水
 水きりて行中 結鈴の深し 全
 望ふ人のあつらふ 高萩 風沙
 ふく 月 梓
 若く 陸水
 身 全

歌仙の部

東旭齋 編撰

初蝶や 新 雲
 琴の目如を 和 洲
 息まねふた 旭 齋
 張のそりたる 琴
 長廊下月 海
 紫衣死の伸 看
 音ハ 琴
 此 海

氣散 不遊 東とまめられ
利口か魚りも 恋の 海きうふ
海ら ちや 吾も 海の 味 ぬ
葎 一の 世に 平かをり あり
海 きの けしき きのうら 月 海
業の ちよき 建 海きうふ
あまの ちよき 海きうふ ちよき
中 海の ありきうふ 新 海きうふ
あまの ちよき 海きうふ ちよき
田 ちよき 海の ありきうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ

高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海

惜む ありきうふ 海きうふ 海きうふ
氷 海の ありきうふ 海きうふ
上へ 一人 ありきうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ
軒 ありきうふ 海きうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ
海 海きうふ 海きうふ 海きうふ

高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海

歌

歌けの麻屋を小押包
さう難解のふゆ考は衣
別まかり運も花も雲
難仕年と大和見取
病 所 雲 扇

暖まをくまあましく建柳
の江あつたふ吹ゆる未屋
旅の春らんゆらふあなまき
順に笑のお休をまは
幸ふと試まをのふりえ
涼 宇 知 素 蓬 宇

よみ并をく物も病もあま
身あまらば病もあま
そつとあまらば福も
階のまらば草穂のふゆ
指ひゆく指もあま
他のももあまのふゆ
任持のふゆもあま
休まもあまのふゆ
まらばあまのふゆ
ゆらばあまのふゆ
紙もあまのふゆ

宗繼の安を移さ池水小

里ハ昔社申かりさ中

色おきし〜かろ〜〜移人言う

お申 思〜ん 空〜も 一匹 ぢき

二三百千 鬮儀のむ〜 拂ひ

あ〜佛を志す〜 縁お〜

如房ッ 朽多 辭を 授も さま 法

子^不刻〜う〜の 小 藤 ぬ〜あ〜死

さ〜 夕 小 ぬ〜さ 小 舟 片 船

まげん 鳴 あり〜 昔も 増 あり

造 師も 吹 舟も ぐ〜ん 念 心 何と

涼 碇 字 涼 碇 字 涼 碇 字

式 部 一 村 の 創^将 の家

夢 ち〜〜 ち〜〜 か 咄〜 あり 翁 ち〜

石〜 たり〜 津〜 別 是 行

さ〜 花 小〜 ち〜 ち〜 の 船 ち〜 ち〜 ち〜

たの〜 ま〜 ち〜 の 津〜 ち〜 舟

遠江安間氏 無行

春の衣と池水さ〜 ち〜 ち〜 し 哉

あ〜 飯 小 ぬ〜 ち〜 古 軒 一 の 風

霧のち 霧〜 ち〜 の ち〜 ち〜 ち〜

刷毛の 吹 ち〜 小 天 井 一 ち〜 ち〜

歌 〇九十四 涼 碇 字 涼 碇 字 涼 碇 字

雲葉は花も梅もぬ月のおり可
 甲はたたりくくくくくくくくく
 片葉の延もちくくくくくくく
 米の氣をいふも附ふりきく
 詫 付もあがりくくくくくくく
 月 けの志くくくくくくくくく
 閑伽楠ありくくくくくくく
 子 祝終くくくくくくくくく
 風 捻くくくくくくくくく
 梅 枝もあくくくくくくくく

潤 海 谷 有 潤 海 谷 有 潤 海 谷 有 潤 海 谷 有

山あつてのこくくくくくくく
 風 邪くくくくくくくくく
 廊 くくくくくくくくく
 女 化くくくくくくくくく
 海 の心くくくくくくくくく
 う ちくくくくくくくくく
 秋 意くくくくくくくくく
 木 のくくくくくくくくく

潤 海 谷 有 潤 海 谷 有 潤 海 谷 有 潤 海 谷 有

月信くくうく向深もあまあま
 氣あふ福神一 清もる
 市立のあまきくく 櫻も樹く
 家親の世話をせわの世活好
 道もあも中ん忌 夢花させく
 中一の己の目も 縁邊の案かく
 花の枝 低くやうくも 中りくく
 影のまげんを 蝶香の 影
 谷 有 潤 河 有 谷 河 潤

春の世はくろくかのもや一 若縁 旭 高

金屏の光りも 空ま別 彦良
 かくも 山あも 中ね 尾くあ
 どやくも 空もあわあ 影く
 春もあてく 空も別 彦良
 からくもあもも 女もあ 中知く
 彦良 中知の 春もく
 振舞の 吹井も 春もあ 彦良
 ると 空も 春く 彦良 突
 春もあ 彦良 春く 彦良 彦良
 葡萄の 柳く 踏も 彦良

歌

樞中一む村あくるくく小やうに家し

移かゝりしれままふやうにまも

苗字は茶帯の浮世をささぐり

縁よ止まれと後継一

新産底やうに西をささぐりたぐ

同座のまめをささぐりたぐ

世小出さぐぬ天意あぐりも判せす

直ぐ引あも半一小膝のりる

山もも南多海縁縁仏いよくわたり

夜中をささぐりる風を食の味

掛引のめいさつさぬあむのつま

懐柔のゆかかりてささぐりる

茶の縁さ夕月社 唐

さうくさくく不自を科も買の市

うつやと腰のひく旅 匠者

あまれとも言つて流り 雨やぬれ

かりは作ひふ換ひやとよ

於の飯喰ひとまかりふ午時あぐ

村の雑費に肝のつあま

新産もつさくさく水車

縁も踏も 春の自社 節

音 海 全 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高 海 高

上毛伊勢崎協洲多具川

繁き水 河代や東の東の春 中 海

まの月輝く 紅の 藤 蘭 庭

五三三三 鐘のゆめ 柳のゆめ 庭 海

陸多水 うちわ 湯の湯 庭 海

おろやろや 吐く 月 庭 海

望みのまき 風おき 庭 海

藤 裁 柳の 白ふ 庭 海

陸多水のまき 柳の 庭 海

陸多水 鐘の 庭 海

陸多水 柳の 庭 海

加の 庭 海

都の方へ 啼 雁 庭 海

陸多水 庭 海

庭 海

庭 海

庭 海

大間手玉橋園中集

芥を 庭 海

柳の 庭 海

鐘を 庭 海

庭 海

さくら子 跡を あれと 月 落く
配る 海を 水の 多い 新 酒
用 是より た 海 水 の つら 業 余 小
浮 世 を 移る 念 休 三 味
何 物 不 及 とも 多 くの ころ 忘 ら れ せ
傍 々 如 此 一 物 之 社 移る
清 遠 々 鼻 歌 吹 不 藩 州 舟
皇 社 あり とも 多 くの ころ 忘 ら せ
霞 あり とも あり 不 斜 一 舟 月 の 照
子 共 不 是 とも 多 くの ころ 忘 ら せ
吹 一 物 之 社 あり とも 多 くの ころ 忘 ら せ

白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白

川 木 之 舟 あり 海 の 糸 遊
ま あり とも あり 跡 を の 旅 の け ぐ とも あり
思 とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり
柿 人 物 一 風 あり とも あり とも あり とも あり とも あり
中 刀 を 奪 とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり
多 深 小 修 人 と 女 あり とも あり とも あり とも あり とも あり
茶 の 水 汲 小 脛 あり とも あり とも あり とも あり とも あり
水 あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり
海 あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり
言 低 の 壑 け とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり
ら 中 候 とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり とも あり

白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白 高 淡 白

歌

茵のふあらしく向ふを月不來
 孝ふのせくくつる流のふ玉
 楸檜のふまへつるも徳のやうり
 能ふひひくは喉不味ひ
 屏一桶とせのやうり不録あうる
 茹ふまきれとくまねかせ——菘
 榮一まう伸もろの歡ふまの敷
 らまねとまに育ら著什
 白 高 深 白 香 淡 白 高

忘らねぬもふんたり、 杜 若 潮 水

湯ねのくろふ 後の 翠 翠 伯耆 不 來

大工 竹ゆい 草の つまき
 月をふと 俵ふか くらふ 泣きまれ
 とう 独り 飲も 吞も ぬひやうり
 まく 酒ふこ ちやうと の 試し
 何々も 怪ふ せり 茶生 笑
 虎ふ入 ちやうと 地 の ちやうと 銭
 杖ふも 兼る 傘の 傘 陰 さ
 人遠く 照ふ ちやうと ちやうと けり
 野ふふ ちやうと ちやうと 窓
 ちやうと ちやうと ちやうと の ちやうと の 上
 車引 ちやうと 半の ちやうと 息
 末 末 末 末 末 末 末 末 末 末

歌

〇百

小憚りな面をきせうけたり

喜相赤い時在るあま

着中一の衣小たまはぬ門燈来

ひりり〜 露の舞あつる空

霞白を移るまきき〜 中一のね

身袖のをり紙〜 正黄昏

兄いあふあふ〜 高竹の浪小こち

お身たれと振と〜 よき

お平〜 涼を納涼意

ま〜 ねとあや〜 喜楽の部

はゆと神の存き〜 終るを

はる〜 獨り〜 花を移るのひと終る

五古小つ〜 文をだ〜 から

けり融小極も伝は青の月

ま〜 産り来ぬ草〜 終る連

糸傳の移るつ〜 刈田あ

寺を〜 業屋小あや〜 終るのち屋

酒の場を忘る〜 名のかけと

燕の二葉小〜 終る 石

まつ木の葉を〜 終る 石

旅客送る〜 喜のはし

水 来

長野 社所事

歌

〇百一

ちりやかハ水鷄てありは蒲の弁
 夏はあまふしのころは 月 一 等 枝
 ふ自他もあきしふ事不任別て
 月 定 枝
 物ろの素角も根根越——
 物果のゆ干部合も標あまをせ
 ぶ——ハ吹々として風のあたまか
 龍標小若氣の備ひ力お
 どの名吹けきも折除と——
 香縁を換れしけり結き——
 男あ——と思ふ寒 垢 難
 空の極吹けけあ——黄昏——
 時計——
 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝

柳——紙——ハ——
 竹 枝
 採く岩の洞もさ——ハ保吉——
 法もあまも夢の世の中——
 月——と若くはふとての——
 委と——ハ—— 著 州
 白丁のきんも 光 妻 あり——
 藤下のも——ハ——
 中——ハ——
 形幸のま——ハ——
 壁——の人も 細標不——
 月——ハ——
 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝 窓 枝

その裾引もつたぬ縁よつて
 癖もよ編むる言ふかたうらみ
 辺の長神もつツ葉をさうせ
 菊人白世のつら悲ひほるるよ
 幾と氣あそむるよの影さやの
 神かのおと好まきあきあ
 破もあはぬ信伴の柳をさけ
 ぶらん世あきまを思ひやう
 せふ神の神もつらあはれ
 ゆくかかきり結るがぢ
 杉杉をさすもつらあの一さかり

枝 葉 窓 枝 葉 窓 枝 葉 窓 枝 葉

春の岸半のあゆむたたり
 ちりりり砂小房き刈 柳
 市あとの遊をさた軒下ふ
 おうくまうく思いつのあり
 風をさしも終始ふささひあ
 空澄んまあま水の洞そあ
 流り渾糸のかりりりさう
 揺りくまをさしあはれ
 高ゆも親の代よりを度げ
 かつ路りて 糸の人 柳

旭 春 湖 高 湖 高 湖 高 湖 高 湖 高

一 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二 うのちちつとも吹のぬこけり
 三 月影ふ庭の氷程輝やきき
 四 徒をかきうふきたる茶の湯名
 五 けしつと添るる紙乃書き給
 六 朝生中めくかきく虫とくわ
 七 何事かきくも世の白ひのまこむ喉
 八 甲を何時を降る心在
 九 半ふささけ草々終れハ叶の舞
 十 是れあふたのくかきくはあふまぬ
 十一 けつとくも住くも宿のたつさり
 十二 今夜はけつとの神の神
 十三 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十四 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十五 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十六 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十七 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十八 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 十九 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十一 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十二 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十三 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十四 ちかぢのふたは脚をもあはせたり
 二十五 ちかぢのふたは脚をもあはせたり

高 湖 育 湖 高 湖 高 湖 育 湖 高 湖 高 全 湖 高 湖 高 湖 高 湖 高

行列をうらむをさるの糸口
裾ふしうた多い云月
高 湖

たけのこまゆあをわく一鳥雀 曲川

垣程をめらるる夏の水吉 竹 菫

出しくけーあとの事なきよびて

近よ使の 見供もまき

明月の雲のくけりて 菫 川

菫ふあいのつらき

川 落を 枝履をくけりて 菫 川

腰低くしと道をか

及もぬきも 枝履をぬき 菫

涼しき二階と階かきぬけ

浪花の月を 菫 川

赤節ハあきとけりて 菫 川

とくくして 菫 川

とや角とつと向ふ方の一里

藤のむらぎをたたくあき

買合のゆきかきぬき 菫 川

年とくくして 菫 川

うらむ衣さるぬき 菫 川

軍さるぬき 菫 川

歌

〇百五

かぶせくさる 世をうらむを 木をさるる

焚火の傍くぬのま 綱 貫

鑄削 庭ハ 竹をさるる 顔 列 珠

實りのあふ 喰いうさもよの 喰

夢をさるる 小 飲をさるる 海も 情を

わさけく 常をさるる 夢を

み道り 小 鳥 欄をさるる 苦を

一 雨を 降も 小 西かひの

山をさるる あり 月ハ 陀か

湖 水 小 房の 半も したる

通るをさるる あり あり 地 徳を 祭

橋の おも あり あり 春 夢 好

さび 小 ち 小 風ハ や

号をさるる ぬらち 水 味の 花を

まの 小 ち あり 插 竹の 露

川 菖 川 菖

中 輝 小 日 如 珠

思 小 物 蓮 字

あ 小 夢 小 あり 中 あり 丸 圃

花 美 字

流 小 物 の 聲を 小 あり 道も 聲を

半 小 あり あり 根 小 入 母 庭

夕 月ハ 目 あり あり 時 あり あり あり あり

美 字 英 字

歌

〇百六

彼も種々冷とあるを撞分け
 ちと家訓如校を志す
 為ふのなきつらき一連意
 隣一り同士のつらき酒連
 あらうおれを髪りけり又一度
 ちやう出である初縁場の日
 さあゆも引もせよおれは
 井の根を古ハ縁のいそ口
 ちやう縁のふれもあはれ
 新の下まであはれなくふね
 旅人も退進なき心とま
 英 宇

のつらきおれもあはれ
 谷水もあはれもあはれ
 茶や一葉を海不代あはれ
 みるの日もあはれもあはれ
 ちやう退進のつらき心とま
 泣きけりあはれもあはれ
 黠書今世を宿ははれ
 ちやう退の音もあはれ
 道の日もあはれもあはれ
 ちやう退もあはれもあはれ
 響りなきあはれもあはれ
 英 宇

歌よとととととととととととととととと

昔思ふくくくくくくくくくくくくくくく

沸くもあふるのくくくくくくくくくくく

若生 嵐のなきははははははははははは

吹かせるもあふるくくくくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくくくく

英

宇

英

宇

英

宇

温泉 廣くはなはなはなはなはなはなはな

若くもあふるくくくくくくくくくくく

高敷守 若くもあふるくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくくくく

田 月

由岐雄

月

新かきくくくくくくくくくくくくくく

若くもあふるくくくくくくくくくくく

作山 若くもあふるくくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくく

何れもあふるくくくくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくく

一と 瑞宝 吹かせるくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくく

若くもあふるくくくくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくくく

戸口 若くもあふるくくくくくくく

あふるもあふるくくくくくくく

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月しふをさひゆり小若うつり

昔少深まる脂のまじりたるき

うき連ふお身揃うて下まゝを察

極よあへたる紙のまじりも 夜

蒼朮とつろいあきたる車屋を小

極ささかりのまじりも一汗

灯をともしを響もまじりも只ゆる

法座すたりもまじりも逆組のやね

持まてくる漆のゆりもお腰のゆり

浅く強きお極を流る 香

ゆりもあがり極の完ちとん

くらぬとの尾をくらぬとん

持るのまじり一隅のむりゆり

お身をまじりも純多若は

彦神のもの若他力もおまじり

山家分限乃高目もあき

陰の所の新若これ八年刻

毎日持除小氣持まじり

まじりも油も小若の上も日知

馬欄も傾くうらまかふ室

流る浦即

うき連ふお身揃うて下まゝを察

極よあへたる紙のまじりも 夜

蒼朮とつろいあきたる車屋を小

極ささかりのまじりも一汗

灯をともしを響もまじりも只ゆる

法座すたりもまじりも逆組のやね

持まてくる漆のゆりもお腰のゆり

浅く強きお極を流る 香

ゆりもあがり極の完ちとん

月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉 月 雉

今年もさきとちがへしうら雨降りて
はらみぬの首尾ふさぎの端あり
からむたふ月小いとき森乃空
秋もつちかへぬのあつらひ
もさきよりともなぬ君の落葉
まろトーつらきも黙らせ後り
よみ年し不承く葉の味しらす
余りすふありきぬ柳の目も
おろみのもねるいなきぬ佐とを
ぬゆはふたのむ 園産れ
新島の宿志しらすき寒の月

育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世

生マハ一 割くけつるあ 髪
つ遠くをゆく道よの花まごり
雪解ふ水あふらる 田 川
石切の目も水鏡ぬ響きの 音
烟る層きく余せる湯ふ瓶
丁寧玉帛の縁をのけく善門扉
底意もおろぬ疎あしらひ
さきもからく空を飛ぶ 芝もつら
まゆめは丸ふらむはまねぐん
あ〜口下さたる若の転ひ米
三 登りやも重 公 費 綿

育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世 育 世

から振をたぐつた軒まなほの車井戸
 そよりと風の渡るうき寒
 月おりの後引き
 びりの音少くは音一升名
 棒持の志加るうき渡くうねく
 元もがふる星の玉の名
 印の影の中れ不細うもむく
 世活あきくは建あくの宮
 遠近の橋のうき引花く
 鹿一た角も振向のぬ鹿

世 有 世 有 世 有 世 有 世

ねる ちかむ ちかむ

蓮 有

杉のあきかた形の 月
 藤一糸酒の火のし振う
 空くもよけきとくまむし
 まるのやうてきうく 針の影
 うつらきふり 蝶の舞ふた
 北窓をみきく 若のひとり知
 所縁院のむかたよくあま
 えをさす 心井の底のくまも
 六丁きり 逢場 びり
 うつれおとさうてき 若きか
 息のたつらん 嘘のふまた

有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

歌

〇百十一

西風の聲くやうある月の光

園の山の秋のたゞ 中

添りて休ふ修師の名を分けて

海魚の住むしかを記の棟

一本とくそくぬかりの花の屋

思ふも多からむとあつてかあつ

よれをくに勝を揚ぐ利柔客

袋もあきき 杖 柶 炬

除あきき——鳥ねの曙の半の糞

おりのさくさく 若多 五やう

時ちや軍の志の邪たも——

草の影をうつむ 大書

こひさの藤菴の臨み 是れ

晴ふあつくと入 齒 落たり

句辞をりし——はるるかき若

はるるさせさくふ 虫う 吟あま

序のよれそのよれそも衣中そも

法寺社宮の清らうらぶある

囀——さの力をそくする 辻お 樸

氣持のよみかきまじりまじり

戸をひくく 留るる 居るる ねるる

大舟小舟沖の 元結——

巻ゆるもたき程あの日おまん

妻の形身を 繋——糸 結

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

高

たゞ終ふあふさふさ苦業とわすれり

夜はゆくゆく暮くあそむる夏 鴨

あつたつと雨具をさるる結ひ身て

若き日の逢ひの判 安くやる

片し懐ふと馬路ふちとふ藤一月

踏む柏多しはそらふ陰町

縁取の自とも道くく 器持つき

登りの入院の丈度くく 中月

水引の流るるくく ちふうの里

あつたつと物のかげのうらみ 意

まのきり月の跡る 雪まの

何くあつたつとあつたつと 祈まの

根をのあつたつとあつたつと

お待の伯母をたつとくく 小空 泪

あつたつとあつたつとあつたつと

花唇 蝶 縁もあつたつとあつたつと

霞の小あつたつとあつたつと

匂ふあつたつとあつたつとあつたつと

引ふあつたつとあつたつとあつたつと

舟まのハ掛らまのせぬけ子船

酒杯 一ね 来たたり きてたり

御 山

素 山

陰 風

逢 月

若 月

踏 月

縁 月

登 月

水 月

あ 月

ま 月

何 月

根 月

お 月

あ 月

花 月

霞 月

匂 月

引 月

舟 月

酒 月

歌

○百十三

浪の巻能くあひの門歩り
母よききこい 胸のうつら
折水のまゆめを吹から 起る世
芭蕉の通も片の人を
室の今宿るをよみ海
浪加波のつづき 折草
原のうらをま念あふりふがら
似た類のあひ十二座の面
世をぬくはち小舟表の建か
石垣かきくまの日に脚
歌類の敵れもなき腹かき
うらなをまかきくまの世の神
四女様も持ていぬき 赤か
周

屏のつけけ 萬様の酒
端蓋のあはれ 源吉の筆か
時をまをまひはむぐり 原
積りまひ 山寺に積もてえ
原のまをまひ 腹に乳を
母の糸のゆきを胸におく
うらなをまかきくまの世の神
宵月不半盛人のうらなを
まのまをまかきくまの世の神
啼くまをまかきくまの世の神
周

春の雪はあつたあつたの馬場を
あつたあつたの馬場を
入口の丸まありあるまふゆふ
さけけけけけけけけけけけけ

静かき空のまはる今日月
綿糸の雪む浦の良寒
新酒杜氏を推挙て
手習ひまはる煙る丸名の欠
紙帳経る菊うらまはるのまはる
あつたあつたあつたあつたあつた

勤めおそふりまはるけけけけ
帯もも自炊の針はまはるけけ
つらも新茶はあつたあつた
筆ももあつたあつたあつたあつた
新茶はあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

炉寒の折ふし冬の送のそめ

茶

まじりのあやしの世月の

茶

梅あけのさきに東有るあつき

茶

葎く白のまじりて 葎 梅

茶

箴指ふらりりと降しとれ

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

ふゆあけのあつきのあつきの

茶

かみふらりりと降しとれ

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

あつきのあつきのあつきの

茶

夢傳のうねもけし申のちねあり
紙をともせし——終のさし傳
ひのしとまきしはさふさふし
過ハとらふけ日多き旅——
お終のまきともまきぬきうけ口
やあそくまされハ酒もうらまき
子健のとけら意あもうららん
後めゆもらるる梅のし
① 春もらるるまきもけし月
かけし知事の上のし 櫻
あけ郷—合小山多様る旅に路は
あめハとらふけしは

宇 高 英 宇 高 宇 高 宇 高 宇

あめハとらふけしは
車—をまきしは水もつてまき
あめハとらふけしはのまき
あめハとらふけしはを傳へるぬき
まきハとらふけしは清もあめ
半—持て居けしはかき
あめハとらふけしは
息と水はともあめぬ移り氣
白ひあもあめとあめぬ味
あめハとらふけしは入やまき
つてまき船の煙りのまき
帳面はとらふけしは

水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南

陸人ハと作も力ら外五つさうに
 ぬるふふふりちる連下糸
 花七白るてもあまは種うれま
 ちも琴弾く系遊の中
 由依波利の場あふ小海もらちち
 履穿られ作州履似る居ぬ
 徒やうあも毎れお限りしそ
 玉更つ新くまは作埋植
 佛くまたるを授ハのまおま所
 志のぶあ毎おす向まらぶと
 ちてふりゝの懸まゝも急度やら
 ちうつとち終ふもとあふらる
 舞ふふふふふふふふふふふ
 あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 萬々の月のまきけをむらふせま
 柳 数ちる 産名 の ちり
 ちよんわりと結守の初夜しそ
 志つつか吐しきつうさのハ
 云平一のま候うつる根来梳
 垣境まで砂利をかりま
 若子校実も園中代て
 空くくくくくくくくくくく
 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水

陸人ハと作も力ら外五つさうに
 ぬるふふふりちる連下糸
 花七白るてもあまは種うれま
 ちも琴弾く系遊の中
 由依波利の場あふ小海もらちち
 履穿られ作州履似る居ぬ
 徒やうあも毎れお限りしそ
 玉更つ新くまは作埋植
 佛くまたるを授ハのまおま所
 志のぶあ毎おす向まらぶと
 ちてふりゝの懸まゝも急度やら
 ちうつとち終ふもとあふらる
 舞ふふふふふふふふふふふ
 あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 萬々の月のまきけをむらふせま
 柳 数ちる 産名 の ちり
 ちよんわりと結守の初夜しそ
 志つつか吐しきつうさのハ
 云平一のま候うつる根来梳
 垣境まで砂利をかりま
 若子校実も園中代て
 空くくくくくくくくくくく
 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水 南 水

戸をさへハ日不さるるり 後の月

五

層

近う 霧 来り 居る 夜の 都

百

谷

船舟の 舟 舞子 たり 口 切て

百

谷

氣 轉ふ 子 多し 音を かく

百

谷

子 後と 終か する どの の 内

百

谷

片 劍 つけ けい けい 雪 垣

百

谷

人 割ぬ 大ハ 掃 けい けい けい

百

谷

何 とも なく なく なく 侍 婢

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

けい けい けい けい けい けい

百

谷

表 けい けい けい けい けい

百

谷

釣 舟 けい けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

海 邊 けい けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

山 崎 小 泉 けい けい けい

百

谷

夢後夢の二つよりい作はあつておれ
 飢を清くつを雲根う 鳴
 ぞう〜も愈りの遷き雲のつ〜
 ま〜り〜と鳴〜 朝か夜の月
 都〜を引〜く 弱のかさり集えん
 仲庭を秋の 餞 別
 ちよん〜たふふ自中不捉磁 石
 ちよ〜の房の向 登〜り〜世
 目物〜ふや〜る〜ふ 幣〜り〜
 せ〜り〜か〜き 南〜き〜ん〜
 何〜ふ〜茶小茶ゆ〜人のさふ
 開化のち〜は酒のさ〜り

谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷 谷

折是また 抱うも 持あり 女市花 狂 人
 柳と〜は〜も 喜を〜つ 秋 香 茶
 月のさけ 極〜端の 涙を〜く 泣し〜
 袋色〜を おろ〜き 履 ち〜
 う〜ひ〜も 老を〜中〜め〜ま〜て〜
 ち〜け〜ぬ〜と〜ろ〜ふ〜ま〜つ 軍 茶 人
 用 向のあやう 海り〜るの 出せ〜
 旅子 葵 古金〜を〜し〜すぬ 茶 人
 後 海〜男の 髪も 切 若ふ〜り 茶 人
 何〜海〜の〜ち〜に〜ま〜つ〜何〜ら〜が〜

茶 人 茶 人 茶 人 茶 人 茶 人 茶 人

歌

冬ももちき地をさく凍の中

馬も千一夜のまき存の所

迷ふれ捨うて号す所を

からけりも若のまき面甲

和ま好あうく結義か舟のま

柳もま名目ふる葉ま

空合のまぶつ花のまらひ

ま解のわつる保勢の宮川

善清物もまま割本をま

好のぬ音のまらびうも

あうつ風のけら二板行

みどりのまお限ま言の

字治のまらうも今もま

惟多を柳の舞く人も

ちうつと顔のま余の葉

うつ利た幸も月懐ふ

船のまらうもまらう

花原のまらうもらう

下り信のまらうも

新らうのまらうも

まらうのまらうも

まらうのまらうも

まらうのまらうも

まらうのまらうも

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

人

成

掃 海に塵をうけける花のうけ
蝶の自在のそとくくゆかき
人 成

燕つゝもまゝ 飛ぶ又千尋の那
号 裁

志とくく 流ふ市井一の葱
旭 菊

町人の泪をかきける空歌
裁

一帖をくくノを好く
菊

心あきまきお風とくつまる夢の月
菊

梅の志あひひく 茅草の陰生り
菊

袴の鞆つゝるふとく
菊

湯殿のなすけ 八雲のたふさ
菊

鱈の身おし 魚の喉ふり
菊

とくまき屋まき下り 襦袢のつんく
菊

つんくまき ねまき
菊

福多おし 六月おし 月おし 星おし
菊

つめくまき 鳴かた ちんちん
菊

たぐく 唐く 佐久ろ 唐糸の冷羊く
菊

建物を 響く 潮のこくふん
菊

咲かす ちんちん 酒も 破るまき
菊

舟舟く ちんちん 池の糸 遊
菊

鶯のとりく 砂ふく 誕生 寺
菊

何ゆきまき ちんちん 池の糸 遊
菊

歌

塔より紅花をよみしつゝかたきよき

難波町に在りし一 景

あまの軍もあがくものききれし

雪おとすやらのくきり

あはれの送りよるも岩根道

掃きくもぬきぬきぬき

生々新ふりかうしつるをききれ

柳の市に在りしつるをききれ

あまの軍もあがくものききれし

雪おとすやらのくきり

あはれの送りよるも岩根道

掃きくもぬきぬきぬき

生々新ふりかうしつるをききれ

柳の市に在りしつるをききれ

あまの軍もあがくものききれし

雪おとすやらのくきり

あはれの送りよるも岩根道

掃きくもぬきぬきぬき

生々新ふりかうしつるをききれ

柳の市に在りしつるをききれ

あまの軍もあがくものききれし

雪おとすやらのくきり

あはれの送りよるも岩根道

掃きくもぬきぬきぬき

生々新ふりかうしつるをききれ

柳の市に在りしつるをききれ

あまの軍もあがくものききれし

雪おとすやらのくきり

朽かゝる 藤多喜思の 極の 影を

髪に 別を する 俗の 帯

ゆくりある 筆一筋 町より 暮して

人の 情を ねと する 唄

あらしのおお 湯を 井水 汲み

海を 舟に 使ふ 舟の 屈

琴の 音も 笛に 舟も 舟の 舟

そとに 舟も 舟も 舟も 舟も

ゆりあしき おに 角解の 女 係入

浪が 舟を 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

舟を 舟も 舟も 舟も 舟も 舟も

歌

二百二十六

成 用 茶 用 茶 用 成 用 成 用 茶 用 茶 用 成 用 成 用 茶

痴癡のわらゝまきけ 秋の末
垣の外うら半の世々 つか
暮しあふ雲ふ少影の立ちまはる
あふ晴るもかゝれ 暁 息
まの光 近きまはるも 暁 中々
晴りまけくぬくふ口 筆

成 用 成 用 成 用

花保くあけふまゆる 茶のあや
少き少痛ふ寒くぬさく
水まらきうら 暁うけ 智く

一 五

推 層 推 層

吹の月とまはりくふねむ 秋
志まら〜す〜に 扇 終る
つ 等 教る 相ふ 何やら 福 言
今ふ 式 家 言の ぬけぬ 新 意
亦〜ても 鶴の 踏 合の 体 ぬきり
水を 打つても さめぬ 日 ぬきり
橋 小く ぬらき 幸 けう ぬきり
清 かな ぬらき 君 ぶ 須 磨 琴
層 々 ぬらき 二 連 三 連 ぬらき
雲 々 ぬらき ぬらき ぬらき
後 庭 小 火 入 ぬらき ぬらき
昔 者 ぬらき ぬらき 表

推 層 推 層 推 層 推 層 推 層 推 層 推 層

ようく笑く懐者さうくふ人さふ
 さもあひまのもまふなるまふ日
 雀もあひま印さふあ雀あひま
 隙一不あなるおのまのたひ
 八あひまあひまはまもあひましく
 阿須波の紫も紫さうのあひま
 宿下りの首尾も縁一の引合
 黒さのあひまさうさうさうさ
 老いほもさうさうのさうあひま減
 おあひまさうさうさうさうさ
 七五之外も湯生押除のあひま
 福りお僕のあひまさうさうさ

推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩

おあひまさうさうさうさうさ
 おあひまさうさうさうさうさ
 湯生のさうさうさうさあひま
 子あひまさうさあひまさうさ
 紫つともさうさあひまさうさ
 さうさあひまさうさあひまさうさ
 田あひまさうさあひまさうさ

推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩 推 恩

さうさあひまさうさあひまさうさ
 長あひまさうさあひまさうさ

紫 弘
 半 海

歌

將参るん 参盤 音乃小 石あり
しう 葉 房の 火をたのつあり
常しよりもきしと思ふ 月の思
扇をまきく 志まきし 志をく 經
新緑のそと 赤坊のらひ 遠く
花掛 通ひも けかきし くらし
山科 小石の 砂粒 あり 是
牙 梅の くらし 葉 非 不と 葉
ゆり 残る 葉 不たし くらし 年 波
唯如 色 くらし 希 不 帆 くらし
乃の くらし 赤 坊 音 くらし 遠 くらし
終るも 運 くらし 乃 音 くらし

弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘

ふらふら くらし 乃 音 くらし
まわりの くらし くらし くらし くらし くらし
乃の 香 くらし 乃の 音 くらし くらし くらし
水 くらし 乃の 音 くらし くらし くらし くらし

弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘

ね 風の くらし くらし くらし 除 夜 の 空
葉 くらし くらし くらし くらし くらし くらし
葉 端 くらし くらし くらし くらし くらし くらし
くらし くらし くらし くらし くらし くらし
ね 音 くらし くらし くらし くらし くらし くらし

弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘 海 弘

秋のやうにさう揺るゆきをふらさうり
 茶の葉あはれこころ 柳の影とくり
 夕のあつらふあつらふとくも生さる共
 やうなまもあつらぬゆきの振とら
 折ふくもあつらぬ影も 浴も 滝
 出あつらふ月り尖る月の 湯
 衝くもあつらぬ帷子のあつらぬおき
 別くもあつらぬあつらぬとくの内
 折る文の一枝あつらぬあつらぬ
 たつきあつらぬあつらぬあつらぬ
 紫あつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 廣くあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 園ひ念のあつらぬあつらぬ 道
 格別のおつらぬあつらぬあつらぬ
 雪のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 花のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 鳥のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 跡のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 近のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 糸のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 尾のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 あつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ

高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成

秋のやうにさう揺るゆきをふらさうり
 茶の葉あはれこころ 柳の影とくり
 夕のあつらふあつらふとくも生さる共
 やうなまもあつらぬゆきの振とら
 折ふくもあつらぬ影も 浴も 滝
 出あつらふ月り尖る月の 湯
 衝くもあつらぬ帷子のあつらぬおき
 別くもあつらぬあつらぬとくの内
 折る文の一枝あつらぬあつらぬ
 たつきあつらぬあつらぬあつらぬ
 紫あつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 廣くあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 園ひ念のあつらぬあつらぬ 道
 格別のおつらぬあつらぬあつらぬ
 雪のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 花のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 鳥のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 跡のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 近のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 糸のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 尾のあつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ
 あつらぬあつらぬあつらぬあつらぬ

高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成 高 湖 成

暮山一の傍もも 卯く秋更々
返つてまゝの竹 片やぬ 状
暮 鐘のまはりの ぼ ぼ ぼ 盟
まゝまゝ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ の 道
花 移りく ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ の ま
かきまゝ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ 時めく

暮 鐘 成 為 湖 成

引つてゆく 名もなき 清ゆ水
ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ 風 園のまゝ
暮 鐘 暮 竹の ぼ ぼ ぼ 芭 蕉
暮 鐘 暮 竹の ぼ ぼ ぼ 芭 蕉

暮 鐘 暮 竹 暮 竹

よひ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ
る の ま ぎ も あ き ま ぼ ぼ 外 茶
あ ら ぶ ま ぎ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ ぼ
福 善 々 々 々 勝 の ま ぎ ー ー 々
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹
暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹

暮 鐘 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹 暮 竹

歌

己らものあづくろ七日の夜を客
庭師あ言ふくろくは陣のあ
梅のまろりむるこ休むせし
身もあざりし上る氣あ
澁多をさし白信は澄水と宗紀
生マあふちれたるのまろりむる
一帯の移りあろくろくは陣のあ
くろくろくろくろくは陣のあ
かー吹風おまろく牛のは
くろくろくろくろくは陣のあ
底のまろりむる旅のあ
陣 幕舎の井戸の洞法

高 全 高 高 高 高 高 高 高 高

越後のあろくろくは陣のあ
信信をくろくろくは陣のあ
奈くせくろくろくは陣のあ
傘のあろくろくは陣のあ
栞あろくろくろくは陣のあ
又渡りのあろくろくは陣のあ
野のあろくろくろくは陣のあ
あろくろくろくろくは陣のあ
あろくろくろくろくは陣のあ
庭のあろくろくろくは陣のあ

高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高

急ぐりしき申ふも月ハふる都合

天

直のまねる胡子のとれやう

天

清きと氣をうかうの秋の夕

成

たーうふ控ふがしきゆる 全

成

ゆつとふく寄州ふあのをあうらん

成

おらちのめさふ幸しきゆる

成

あか力中しきゆる考酒の目

成

瓦を碎しきゆる白面

成

吉布の出入る年を夢のゆり

成

ゆりへ若芳あやうふいふ

成

お引ふらるるに平も海まかり

成

よら川あるふ用のたう人

成

中しきゆるの海は月と世

成

何れかろき今年のうちうら

成

減れきるうらも志きうふ移し像

成

漏れを澄ましき砂まりの水

成

洗滌をうたふあやうく暑うり空

成

石の間きく一丈七り 雲

成

一まらわゆる心けらるる園の園

成

岩の碎しきゆるもびらうらとま

成

木の葉を揺るやう小平家の燈送し

成

長持の鼻しきゆる糖のまどかき

成

いあうあけらるる蟹のあうらうら

成

さうらうらむせ草葉のなほ

成

細井子落さう月の明かり

ひしほきくもふ新豆を煮る

暮ふらふあれは又もく秋の門

そやうの小きくぬ宵拍う秋

落ふれく居るも宮司の堂やれ

河原ふあづりく持碁の箇

さくさく心ゆきくも移らきく

移る陽氣ふくもさき海若

成

成

大

成

大

大

大

大

閑 窓

くくおきくお 剗 深きねて老きけり

裕子もあふ風糸くもきくも

てくおかきくもくもくもくもくも

おけくもくもくもくもくもくも

多ききくお若き月の並 心ら

碁碁め水ハきくもくもくも

碁碁の何くもせぬふさかて

おッ 碁子くもくもくもくも

くくくもくもくもくもくもくも

碁の若きもよわれあくもくも

碁おく碁くもくもくもくもくも

碁碁おくもくもくもくもくも

碁くもくもくもくもくもくも

月おきくもくもくもくもくも

南

南

南

南

南

南

南

南

南

南

南

南

旭 南

南

はやくもく踊く踊く踊る舞かぶり
薫りくを香の蓬の 籠とて
海音も舞なまは焚くく正に籠とて
山々も山かめを多めか 不き
杖引くく押のまひくく山まきくく
竹の床凡ハまきりくく山ま
たあれまきくくまはくくまはくく
懐のまはくくまはくくまはくく
夕顔のまはくくまはくくまはくく
花のまはくくまはくくまはくく
花のまはくくまはくくまはくく
花のまはくくまはくくまはくく
花のまはくくまはくくまはくく

音 甫 高 甫 高 甫 高 甫 高 音 休

靴のひびくも申すも靴 あり
奈良の山まふまはくくまはくく
先づくつ揺るもまはくくまはくく
うきく山まふまはくくまはくく
扇形もまはくくまはくくまはくく
そんまふまはくくまはくくまはくく
あく神を祈るもまはくくまはくく
喰くまはくくまはくくまはくく
おのまふまはくくまはくくまはくく
白ふまはくくまはくくまはくく

音 甫 高 甫 高 甫 高 甫 高 音

神代洗る園即ち

歌

〇百三十五

くらげうすく秋の夜ふり咲きかたり
 錦一歌く月夕葉へ
 揚へ向てる秋の二を目の舟つけく
 轡を助けんかき死あ―ゆと
 茶ゆたけ茶をあらふ神あきり
 下葉の粒く風ありき―
 串と鳥を葉ののめりてまを
 後の人きりふく月夜ころゆる
 ともくわたり江のあ―とや笑もれん
 東の刻―ころふるあふり出き
 悲海の先ふびと繋りあ―とまは
 大目うんあ―のえぬあふりまきり
 居 居 居 居 居 居 居 居

上弦をちるうとねむれなきあうり
 露ふを群ゆりつるあ―まは
 秋葉ふ初の風私をつくらあき
 涙の去轡のまきひまき―まき
 花さす下り後考り―のまきり
 上のあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 野道の前群もまのうら―く
 娘ふら―い面心産 たり
 ちるもそつんまらけの株と茶
 茶名を茶の今よまをまき
 何れりなきぬ吉ひ―と織ゆの
 ともくわの里けぬ炭焼の露
 居 居 居 居 居 居 居 居

歌

耻のえんつゝ今ふ日め暮るま
 ふしき解をぬり秋水
 捨のおくちうは経糸は風の流
 けは流もかしく事一のく
 花ありとほきく守らぬ節も好
 りふの春のきげんえきま
 肩刺る上巳の暮るまをあきら
 縁うらのきぬ話のゆさぬ
 紙糊ハガのゆ小籠まこ
 掛一竿のまきまきかかれ
 竹影もさんせき一き田村時
 平うゆる白の自然傷解むむ

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

おくはくし一 春のまきまき
 まきまき一 菊の泥盤
 菊のまきまき一 露のまき
 菊のまきまき一 露のまき
 見おせはいたるに冷る月の雲
 娘ふむし一の人側に来る
 存存ふ後まき一 おく上州磨
 存存ふ時斗の道ふあれうた
 鹿人のまきまきひとりまき
 鹿人のまきまき一 鹿のまき
 まきまき一 鹿のまき
 まきまき一 鹿のまき

人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人

月ふくらみたる白——の所花 葉古
 菊のまきもききやうか 秋 旭 高
 折鶴を 出さし——小舟 作りを
 草とる者いゆ——ふおらるる
 ぞと今もも百度 実をきききき
 道つ——ふらり 落るる——む
 印——ふ人もも 麻ふ 命う 茶屋
 あの一寸きいもん ふ西 派
 卑 下す 舟の 流るるの上か ねんむ
 玉の酒あらし 間ひもちつらり

雀鳴き 雀解の 空に ききん 車
 ひょうろ——とく 折鶴 かけの 櫃
 五利うと 世は 十ふの 舟るさ た
 半ふはらぬを 鬼 斬てくる
 浅州ハ 舟の しのめう 社、車とくろろ
 面シ 衆とつとの せき 神 棚
 舟の 舟を 落し 舟に 木ふ 竹
 幸 考るるるるる 及の 舟とくろろ
 曲水の 宴、満るるる 只の 川
 舟を かけも あん 舟らの 舟前 若
 癩 疔の 舟か——と おけい 起るあがり
 舟も 温泉の 舟 酒坊の 夕暮

拾の物故〜たゆ〜不返〜たき
 まね〜昔も今も〜
 顔もせ〜くを〜の吉弥之
 服て今も昔も衣の幕引
 か〜と十三階を投うて
 縫の毛形り不辨を付渡す
 平らむれに四河よ八月の人
 ろひあ〜〜〜島由茹菱
 心〜赤城抄〜不運ふ冷
 風来大もき〜尾を巻く
 衣代も清〜くは初合好 蘇
 流〜もだま〜余も初め〜
 古 高 古 高 古 高 古 高 古 高 古 高

ちの〜を〜
 多〜ま〜
 古

首尾 雑題 朝

様跡より容もや替〜る度よ
 鈴を延〜にま〜の初 新
 夏中委 越中のふんと暮〜
 遊〜お〜絶を〜
 屋〜な〜あ〜の〜
 秋の風 掃を〜引板
 過〜の〜近〜 祭
 我 悔もき〜
 陰 屋 素 山 風 正 風 山 全 風

歌

恨し氣 心のこゝろかあつたあつたから
あつた合 局からあまぬまのこゝろ
日暮 里のあまぬまのこゝろ
そこの 鐘のあまぬまのこゝろ
あまぬまのこゝろ

讃岐大田郡引田里即事
水仙の宮よ 汐のや 影の月
聲 けきり 啼 我の 物
あまぬまのあまぬまのあまぬま
時をあまぬまのあまぬまのあまぬま
かろふれ 遠の 燈の 美しき
あまぬまのあまぬまのあまぬま

供 いたる 大の 茅の 輪の外 へ 竹
ま いたる 使ふ こと へ けしき 筆
喧嘩 あり 沙汰 女房の うち へ
更 かく 降の 戸の へ げく 鳴く
雨 掛の 蓋 きれぬ と 物つ ぬく
月 夜 更 へ けしき 筆
後 の 彼 岸 の 世 活 へ けしき 筆
月 三 夜 更 へ けしき 筆
塚 の 際 へ けしき 筆
花 へ 今 盛 へ けしき 筆
あまぬまのあまぬまのあまぬま

歌

百四十一

落付た春は縁路も走り解
 何れも道程よ岐たれは縁
 露た半を起せの門の廣くなり
 五文の聲出ししき 豆 折
 知うていつのふ際とくる 生差酒
 ちめくは下結をかきせておく
 常一志めく和この志のけきて氣を
 二和の勢はゆるくふ 帰
 山幸は石段下りる 怖るしき
 眼の赤赤くしき 時紅深切
 来た状は月の案内と行遠る
 乃く倒しきく氣ゆかきく 蒸

〆 〆

夏唐のくえ 夢きくれく 飛く 里紅結
 虫——つかくは程久——ふり
 玉き——をかきく——露ふ人もなく
 道かきく——く 眼く 髪 結
 ちめく——く 居——く ちも 結 げふ
 土境の深きやうな 若州

〆 〆

西京洋水園興行

紙の着た人を垣結ふおのく
 花もつ石落小神きく日のけ
 歩路のあきき若紅帰——去る
 門通りしきくしき 行遠るけり

芥舎 柗下 碑山 舎

月をまよふあやうらそららゆきたし
 そらうらそら 雲とて霞たし 若き
 新玉 一と集れいすら 無網代折
 田心 とうとうり よきき 白 聖
 ときらきと 嫁れりき 若き 續き
 曲突の終りき 歌くまき お
 降ことも 志らぬ 小曾お 一二寸
 とーより ぶきき 旬ふ 菜湯
 おくききき 今おあさー 袴 好
 麻生られき 扇 匂 犬
 何家やら 小雀生 氣あま 豆 鷹 煮
 降こ 咄ー ぬきき 門 中
 倉 山 下 倉 山 下 倉 山 下 倉 山 下

月をまよふあやうらそららゆきたし
 そらうらそら 雲とて霞たし 若き
 新玉 一と集れいすら 無網代折
 田心 とうとうり よきき 白 聖
 ときらきと 嫁れりき 若き 續き
 曲突の終りき 歌くまき お
 降ことも 志らぬ 小曾お 一二寸
 とーより ぶきき 旬ふ 菜湯
 おくききき 今おあさー 袴 好
 麻生られき 扇 匂 犬
 何家やら 小雀生 氣あま 豆 鷹 煮
 降こ 咄ー ぬきき 門 中
 倉 山 下 倉 山 下 倉 山 下 倉 山 下

歌

光のりも葉——氣のあまき 鈴の空 下
 ありき——秋のききき 細道 山
 大んごかと思ふ——はらばら 山 舎
 梅抱あ——人恋—— 下
 何年くも志れぬ少家の奇麗あり 山
 切戸開の——舟を 押 出 舎
 多しうき花の舞 暮る 願わし 下
 遊ふ 春を——のふも 山

明治新五百題卷之下

明治新五百題人名録

東京

春湖 等哉 幹雄 聽松 一道 藤居 澄江

陶菴齋 單山 乙彦 素水 松雄 恭道 沙山 竹葉

宇山 霜村 雲外 翠葉 永壽 桂花 永機 謝德

五休 完岱 富水 吳仙 千畝 金羅 大喬 三守

精知 素石 予雲 晚香 常磐 茂翠 梅年 鶯笠

和橋 山月 默平 種英 晚節 双山 尋香 月彦

西京

芥舎 十水 南德 連梅 碑山 梅敬 素考

犁春

大坂 潮水 南齡 流英 似水 播磨 月沼

卓志

淡路 周策 晚香 洋々 阿波 堯年 雪江

雪野 竹左 菖溪 思風 宇雀 土佐 木雞 玄黙

松塘 五菖 伊豫 半窓 鶯居 佳笑 卓山 無世機

人名録

肥前 山畝 **出雲** 曲川 **紀伊** 芥夫 **讚岐** 北翠

一榻 芳直 芳笠 二江 佳大 聽濤 **近江** 一鼎

交友 **美濃** 竹茁 二光 不言 **尾張** 羽洲 甫

靜處 車友 禾啓 柏二 醉雨 荷庵 可洗 來丈

梅堂 抱明 柏英 鶯丘 素溪 梅洲 素陽 三來

呂長 三楓 躬元 羊山 英齋 **三河** 蓬宇 百頌

橙秋 知綠 竹窓 李川 素木 素鱗 無一 其樂

似水 春葦 榮德 靜盧 芥秀 石芝 解掌 **遠江**

十湖 一圭 竹華 雨竹 小安 野風 耕齋 梧城

鼎湖 鷲村 三松 通義 周湖 木潤 甘谷 槩城

史敬 **駿河** 穗堂 一柳 八藏 對嶺 雲眠

五拙 鶯後 淇水 九成 曉鳥 壽計 秋圃 延松

拙雙 雪香 雪紫 青溪 洗我 宇平 未成 **越中**

一有一芳 以足 一龜 露心 木兄 和翠 可節

素珀 素笛 蘭底 雨曉 風袋 布尺 三桃 菊庭

錦坡 松亭 仙月 石甫 春秋 春漲 松花 西蘭

一叱 **越後** 抱月 保壽 鳳齋 米花 得山 良山

良保 流芳 感之 素青 南枝 空海 撫石 貴山

龜石 遊雅 湧泉 蕉影 拾月 曆風 萍英 雪韻

晴月 雲臺 文貞 小谷 木雄 旭扇 路村 佳芳

丹波 木生 琴山 **因幡** 巴大 烏牙 **百葺**

子來 晚香 雨節 **美作** 嵐六 愛藏 滴翠

一呼 **備後** 喜水 翠影 **周防** 春阿 **長門**

梅宿 幽草 **豐前** 瓢舟 **伊勢** 景樵 波聲

人名錄

其山 暉水 清香 耕雨 霞明 素問 藏中 其有

陸輿 有川 **陸前** 寶山 木公 依子 葦子

士峰 松翠 **陸中** 龍山 少女 五白

盤城 桃壺 一瓢 喜雀 松星 示成 見二 虎心

玉光 寶龜 **岩代** 五成 清良 **羽前** 也足 五鳳

以一 一松 逸三 芦川 梅圃 梅丘 北遊 鳳尾

豐空 知十 知足 澄水 釣石 流水 立風 犁圃

柳水 柳舍 軒月 霞芳 太湖 素鳳 雲山 翫月

花民 風鶯 不白 小浦 好古 素山 喜哉 久榮

琴童 松奎 松帝 春山 松谷 松韻 子龍 唇風

霞洲 詠泉 猿壽 百谷 雪山 碩田 松民 醉花

霞仙 喜哉 **羽後** 唵風 素山 一水 一鼎 一柳

一爽 弄山 保榮 巴水 如山 雀聲 柳翠 可物

浪波 樂水 嵐松 花宴 藪成 月輪 湖尹 五風

櫻山 其德 奇峰 淇山 自厚 含香 清逸 静淵

雪琴 翠月 康哉 葦窓 江春 **上野** 棗古 梅里

霖山 芳洲 半校 竹立 知里 栗左 良虎 乙瓢

か 赫眠 素若 素川 素洲 蘭庭 蘭月 蘭花

鶴翁 花友 光玉女 虹棧 兔洲 考三 丘虎 暉堂

明好 眠海 金重 遊望 水也 繁弘 松堂 案詠

壽延 松巒 思樂 青我 清水 雪窓 青山 器三

蛙周 靄外 春鳥 **下野** 此山 言海 守拙 茂精

武藏 完鷗 涼坪 一水 梅翫 圃柳 里桂 耕谷

大栗 佐竹 吉東 曾本 一知 一郎 東風 輕白

壽水	春晴	俊齋	松月	三根	三雄	天遊	宗露
靜月	生具	靜遊	清古	石軒	仙林	精池	靜岳
永明	棠林	百之	莖生	瓢風	木夫	元雄	清湖
茶候	窓挑	豐	義堂	周齋	真路	如蘭	志一
洪齋	胡蝶	好風	子彥	湖舟	丁左	貞幽	允文
琴史	可笑	一可	魯周	一川	半醉	芳賀	一芳
鶴翁	滴齋	季山	松英	三鳥	謝孫	竹世	春城
下總	汎翠	櫻居	季成	如木	步山	月杵	月彥
歸雲	照齋	松月	藤磨	蘭哉	東海	一澄	守黑
可都	聖	樂只	画村	健齋	史雄	阿丸	山月
幻史	上總	素齋	千里	柳蛙	歌曰	可月	樂山
知秋	羽山	枝鳩	三葉	喜山	涼花	友昇	柳水

梅榮	保扇	梅林	之卷	東逸	東井	知明	知白
李塘	良月	竹用	知麟	知山	知桂	知柑	竹溪
竹鱗	中和	降昇	林明	竹樓	枕石	千成	竹陰
潮光	竹園	柳心	流挂	知文	竹亭	里節	柳井
竹醉	竹左	柳枝	柳眠	乙年女	和親	柳雨	可嘯
列雅	武人	叟明	南木	素鳥	大寶乃	永成	宇晴
鶴汀	和親	花鳥	翫之	寬山	保直	少女	文庭

人名錄

白誓	甫竹	梅誠	樵年	米雄	梅茂	東雲	梅圓
稻守	芦風	鷺沼	糸丸	一兄	一推	花彦	方多
靖舍	山碇	陶鷄	竹養	深處	文五	松琴	松水
一竹	神浦				常陸	正喜	可昇
						一布	
早我	文生	見聲	桂潭	竹里	清月	誠雄	清月
松圃	薰風	森彦	瀨川	清志	泉溪	竹香	千嶽
壽月	昇齋	曙山	松月	喜遊	儀誠	酒重	秋月
春齋	喜遊	龜壽	春德	喜鳳	壽遊	其道	如翠
旭井	奇孝	宮城	仁里	喜明	九泉	起蝶	
森鄉	貞松	喜雪	喜豐	遊鶴	其柳	金逸	勇雄
虎遊	梧成	文彦	溪月	江齋	昆明	貞松	貞三
敬月	月溪	文翼	馨月	桂室	月艸	文橋	五曉

千海	藤枝	知新	雀友	兔月	良齋	竹世	雀靜
千春	東虎	雀雅	隼石	陰年	柳子	甘露	笠友
洋月	霞鄉	柳枝	霞舟	總月	麟角	可聞	窓月
恒九	南舍	蘭岡	雨柳	花角	花友	挂下	阜山
鰐川	高角	櫻仙	三逸	龜遊	之幹	三圭	
壽山	松影	如水	是水	勝川	莖路	喜柏	曉戶
三里	歸來	美兒	旭鶴	賞素	喜宗	羨躬	二水
二水	紫隱	榮花	一三	閭誓	史轟	瀨水	靜山
青菝	仙丸	龜年	龜月	梅梢	里九	束壽	如柳
壽玉	風扇	芭美	二石	柳志	遊子	壽玉	比良久
	伊豆	連水	始耕	梧桐	九成	相模	壽道
旭哉	開茶	草巴	壽水		甲斐	竹良	杉夕

人名錄

五

守節	香芸	幾秋	信濃	月窓	雪洲	芝昭	泉殘
松翠	雪樵	洲白	清岨	雲老	靜秋	蕉露	省我
其殘	春鷗	千葉	春山	靜馬	蕉古	如水	積翠
水竹	松露	壽白	明鄉	如雲	如鳳	如水	明林
喜逸	茶好	鳩峰	三菱	龜泉	鄉友	杉志	其盛
田柳	支室	山石	吾柳	西洲	湖邊	湖邊	文義
一明	芦水	一壽	一山	圓山	一柳	梅園	白洲
一林	巖	梅曦	梅一	蜂遊	二香	芳辰	鵬山
園柳	一丸	一夢	花子	梅向	梅月	米山	東岸
一枝	珍山	一定	長和	竹友	珍莊	桃叟	一聲
朝逸	一鳳	長樂	稻谷	甚一	梅枝	篤石	甘雨
一朴	得水	重瓢	一桂	寥湖	一昇	寥左	一芝

柳哉	黑川	一花	柳齋	一舟	龍虎	買竹	田月
可鍊	芭丸	梅女	可然	多女	佳糸	雲靜	蘿城
嵐厚	蘭峨	硯水	浪月	月望	布精	固坐	光齋
吉度	竹成	かつ女	東練	真琴	驕馬	遊月	遊燕
松屋	秋紅	若男	雪庵	雲老	吾柳	採花	護通
湖雪	吾佛	道生	備前	秋艸			
河内	快月	竹窓	魁村	攝津	松泉	卓志	
	山城	柳後	素考	大柳			
採糸	筑前	石淵	和泉		大和	水石	
文器		能登	守朴	浮葉	志摩	一滴	千雀
蟻通	佐渡	節坐	越前	雪主			

明治新五百題人名錄終

人名錄

明治十四年四月廿一日板權免許
同 年六月一日出板

東京府平民

橘田春湖

深川區中佐賀町二丁目四番地

同

三森幹雄

日本橋區蛸壳町三丁目四番地

千葉縣平民

東旭齋

下總國香取郡多田村七十三番地

東京府平民

江島喜兵衛

日本橋區本石町三丁目九番地

千葉縣下總佐原村三百七十三番地

朝野利兵衛

撰者

同

編集人

出板人

發賣人

小築庵書房代撰
不去庵梓燈撰
杉西庵旭齋編輯

明治五百題

定價四十五錢 全貳冊

同新

定價五十錢 全貳冊

同新 近刻

全貳冊

掌中 洋燈

對格字乙亥編輯
佳章園等執筆
聲西葺旭齋撰
全壹冊

掌中 俳諧七百題

定價十五錢 全壹冊

小築庵代撰

俳諧七百題

定價廿八錢 全貳冊

於事僅一編

發賣八百題

定價廿八錢 全貳冊

東京并二各地發行書林

東京
全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

北畠茂兵衛
稻田佐兵衛
山中市兵衛
稻田源吉
丸屋善七
水野慶次郎
内藤泰次郎
出雲寺萬治郎
石川治兵工
荒川藤兵工
品川登羅
北澤伊八
小林喜右工門

東京
全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全

河邊雅助
吉川半七
中村佐助
穴山篤太郎
博聞社
山中孝之助
稻田政吉
山中喜太郎
牧野善兵工
牧野吉兵工
鈴木忠藏
福田仙藏
別所平七

東京
全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全
大坂

榊川梅治郎
岡村庄助
福田勝藏
淺倉久兵工
青山清吉
東生龜治郎
岡田文助
江島伊兵工
前川善兵工
前川源七郎
柳原喜兵工
吉岡平助
梅原龜七
赤志忠七

西京
全全全全全全全全全全全全全全全全全全全全
尾張名古屋
半田
大野
伊勢四日市
桑名
津

大谷仁兵工
田中治兵工
川勝德次郎
片野東四郎
矢田藤兵工
三輪文治郎
栗田東平
梶田源助
小栗太郎兵工
伊藤真藏
伊藤善太郎
中島富三郎
大塚茂兵工
篠田伊十郎

伊勢松坂	本屋嘉助	遠州濱松	三盟社支店
山田	山本龜太郎	見附	古澤良作
美濃大垣	藤原長平	二保	酒井忠造
岐阜	岡安啟助	掛川	天井金藏
全	平野利兵衛	全	大塚好五郎
全	三浦源助	駿河藤枝	大坂屋弥平
全	水谷善七	全	遠州安兵衛
全	玉井忠造	全	塩川健三郎
三洲岡崎	伊藤文吉	全	佐藤俊平
全	高須又八	全	廣瀬市藏
全	村田英吉	全	吉成壽三郎
全	齋藤源三郎	全	小松浦吉
全	落合清七	全	荒川源助
全	白木健次郎	全	内藤傳右門
全	甲斐山梨		

甲斐山梨	弁達會社	武藏熊谷	松枝悦三郎
伊豆三島	關谷利右門	全	岸田屋文次郎
全	小西又三郎	全	井上伊三郎
全	平野屋久七	全	藤屋源作
全	相模小田原	全	山崎屋長兵衛
全	曾比屋平七	全	山下安民
全	大島治郎兵衛	全	安喜良新四郎
全	山田淺次郎	全	和田屋弥兵衛
全	伊原	全	和割一三
全	橫須賀	全	小松屋長七
全	武藏橫濱	全	木屋吉左門
全	深谷	全	和田屋清吉
全	酒井省吾	全	和國屋茂一
全	小野脩三	全	多田屋嘉左門
全	酢屋安兵衛	全	
全	本庄	全	
全	長島為一郎	全	
全	東金		

上總東金在	木屋和	市	下總佐原	正文堂利兵工
全 松尾	嶋田成	之	全 小見川	山月堂勇助
全 大細	清鑑	堂	全	高寺清兵工
下總野田	茂木林	藏	全	佐野屋新次郎
全 千葉	藤屋錠次郎	全	全	小文堂太助
全	伊藤周太郎	全	全 八日市場	吉田屋儀三
全	乙亥	舍	全 多古	江戸屋小吉
全	博文社支店	全	全 鉦子	飯田屋今治
全	品川金十郎	全	常陸水戸	北澤安次郎
全	大和屋佐兵工	全	全 太田	宮田雲城
全	中井藤右工門	全	全	沼尻茂兵工
全	吉田傳左工門	全	全 石岡	近江屋清助
全	江戸屋伊左工門	全	全 龍ヶ崎	大坂屋重兵工
全	榎水沼郎左工門	全	全 長峯	菊地儀助

常陸七浦	伊沼弥助	信濃飯田	十一屋半四郎
全	間原平右工門	全 上諏訪	袴屋茂吉
全 湖來	叶屋榮助	全	藤屋機右工門
全	清見屋孫四郎	全	藤森平五郎
全 飛彈高山	柙屋重兵工	全 須坂	山下八右工門
全	坂田嘉造	全 佐久	淺井増太
全	西澤喜太郎	全 高遠	矢島金八
全 信濃長野	松木豊平	全 上野高崎	崇文堂輝吉
全	藤松屋損十郎	全	文心堂源作
全	高見甚左工門	全 藤岡	松野屋貞吉
全 松代	炭屋勇太	全 富岡	沼田文次郎
全	伊藤甲造	全 太田	長岡屋鷄三郎
全 上田	相場七左工門	全 桐生	竹内藤吉
全 小諸	油屋儀右工門	全 伊勢崎	川木屋平吉

岩代銘林	糸屋太吉	岩代郡山	小野屋茂助
下野柄木	管谷甚平	陸前仙臺	菅原安兵工
宇都宮	山中八郎	益友社	伊勢安左門
篠崎新左門	田野邊忠兵工	渡邊兵吉	山口啟之助
和洋高社	新井金太郎	佐沼	近江屋源左門
相場廣四郎	清水甚三郎	陸中一閑	佳芳園
磐城平	松屋健之助	陸奥青森	池田吉助
棚倉	齋藤彦太郎	八戸	浦山吉朗兵工
岩代福島	近江屋周吉	弘前	石井利兵工
若松	森万助	越中高岡	武田莊吉
	齋藤八四郎		國本吉右門
			車平次郎

羽前山形	市村五郎兵工	後志小樽	田附新九郎
全	平田弥平治	越前福井	若代正
全	荒井太四郎	加賀金澤	近八郎左門
全	八文字屋太右衛門	全	近岡屋太平
全	中川久助	全	中村喜平
全	田宮五郎	越中福光	清水清右門
全	地主文藏	全	山野清兵工
全	小池藤次郎	全	土井宇三郎
全	萬屋利七	全	大橋甚吾
全	加藤伊七	全	守川吉兵工
羽後秋田	本間金之助	越後新渟	堀治作
渡島箱館	魁文社	全	小方長吉
全	中村與七郎	全	本田勝太郎
後志六條	竹岡勇造	全	藤屋直三郎

越後葛塚	三條屋七十郎	周防岩國	米屋助右工門
全 長五	大坂屋榮左工門	長州萩	山城屋彦八
全 水原	二田屋沼八	防品山口	阿部準助
全 岡野	中村作平	筑前福岡	林 介助
全 地藏堂	島屋六平	全 筑前	古野德三郎
全 小千谷	村田大三郎	全 筑後柳川	宮本字三郎
全 四谷濱村	伊丹屋藤吉	全 筑前中津	梅澤壽平
全 四ノ野村	小村屋定吉	全 筑前	野依督三
全 柏崎四谷	佐藤友吉	全 豐後佐伯	東 圓作
雲州松江	竹田 健	全 肥前佐賀	河内莊助
播磨姫路	下條弥三郎	全 長崎	以文會社
備前岡山	園山喜三右門	全 肥後熊本	長崎二郎
	小野長平	全 薩摩鹿島	水島貫之
	中島屋益太郎		吉田甚兵工

